

EPSON



Google TV

取扱説明書

Home Projector

Lifestudio Grand **EH-LS670B**

Lifestudio Grand **EH-LS670W**

マニュアル中の表示の意味	5	Epson Projector Update について	28
マニュアルの使い方と情報の探し方	7	Epson Projector Updateをインストールする	28
キーワードで検索する	7	プロジェクターの基本機能を使用する	29
しおりから直接ジャンプする	7	プロジェクターの電源を入れる	30
必要なページだけ印刷する	7	プロジェクターの電源を切る (サスペンド状態)	31
ドキュメント類の最新バージョンを入手する	8	プロジェクターの電源を切る (ディープスタンバイ状態)	31
プロジェクターを使用する前に	9	設置モードを選択する	32
プロジェクターの各部名称と働き	10	メニューから設置モードを変更する	32
プロジェクターの各部名称 - 前面/側面	10	ピントを調整する	33
プロジェクターの各部名称 - 上面/側面	11	映像のゆがみを補正する	34
プロジェクターの各部名称 - 背面	12	壁に投写するとき	34
プロジェクターの各部名称 - 底面	13	スクリーンに投写するとき	35
プロジェクターの各部名称 - リモコン	13	映像の色味を調整する	37
プロジェクターを準備する	16	映像のサイズと位置を調整する	38
プロジェクターの設置	17	投写映像を切り替える	39
プロジェクターの設置・取り付け	18	映像のアスペクト比を設定する	40
設置に関するご注意	19	映像のアスペクト比を切り替える	40
プロジェクターを接続する	20	アスペクトモードの種類	40
ビデオ機器を接続する	20	映像を最適化する (カラーモード)	41
USB機器を接続する	20	カラーモードを変更する	41
外部オーディオ機器を接続する	21	カラーモードの種類	41
eARC/ARC対応AVアンプを接続する	22	映像を最適化する (詳細設定)	42
ヘッドフォンを接続する	23	映像の光量を調整する	43
リモコンに電池を取り付ける	24	光源の明るさを設定する	44
リモコンを操作する	24	音量ボタンで音量を調整する	45
プロジェクターを設定する	26	サウンドモードを切り替える	46
ホーム画面	26		

サウンドモードの種類	46	プロジェクターをメンテナンスする	64
プロジェクターの便利な機能	47	プロジェクターのメンテナンス	65
プロジェクターをBluetooth®スピーカーとして使用する	48	投写窓を清掃する	66
映像を一時的に遮断する	49	モーションセンサーを清掃する	67
Google Cast™を使用する	50	本機を清掃する	68
HDMI CEC機能	51	エアフィルターと吸気口をメンテナンスする	69
HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する	51	エアフィルターを清掃する	69
エアフィルターを交換する	70	吸気口を清掃する	71
セキュリティケーブルを取り付ける	52	液晶パネルの色ずれを補正する（液晶アライメント）	72
Epson Projector Updateでファームウェアを更新する	53	困ったときに	74
プロジェクターを初期化する	54	トラブルの対処方法	75
メニューの設定	55	インジケータの見方	76
プロジェクターメニューを操作する	56	電源に関するトラブル	78
チャンネルと入力メニュー	57	電源が入らない	78
プロジェクターメニュー	58	予期せず電源が切れる	78
ディスプレイと音メニュー	59	映像に関するトラブル	79
その他のメニュー	62	映像が表示されない	79
ネットワークとインターネットメニュー	62	映像がゆがむ	80
アカウントとプロフィールメニュー	62	映像がぼやける	80
プライバシーメニュー	62	映像の一部が表示されない	80
アプリメニュー	62	映像にノイズが入る、乱れる	81
システムメニュー	62	映像の明るさや色合いが違う	81
ユーザー補助メニュー	63	音声に関するトラブル	82
リモコンとアクセサリメニュー	63	音が出ない、小さすぎるなどのトラブル	82
ヘルプとフィードバックメニュー	63	Bluetoothスピーカーモードでのトラブル	82
		リモコン操作に関するトラブル	84

HDMI CECに関するトラブル	85
Wi-Fiネットワークに関するトラブル	86
コンテンツの視聴に関するトラブル	87

付録 88

オプション・消耗品一覧	89
スクリーン	89
マイク	89
消耗品	89
スクリーンサイズと投写距離	90
対応解像度	91
本機仕様	92
接続端子	92
Bluetooth仕様	93
外形寸法図	94
安全規格対応シンボルマークと説明	95
レーザー製品を安全にお使いいただくために	97
レーザー警告ラベル	97
用語解説	99
一般のご注意	100
使用限定について	100
本機を日本国外へ持ち出す場合の注意	100
瞬低（瞬時電圧低下）基準について	100
JIS C 61000-3-2適合品	100
商標について	100
ご注意	101
著作権について	101

マニュアル中の表示の意味

安全に関する表示

本製品および取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくために絵表示が使われています。

人体への危害や財産への損害を防ぐために、次の絵表示で表記された説明は、内容をよくお読みいただいた上で、説明に従ってお取り扱いください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する表示

 注意	注意して取り扱わないと、本製品の故障や損傷の原因となるおそれがある内容を記載しています。
	知っておくと便利な関連情報を記載しています。
 ボタン	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：  ボタン
[メニュー名/設定名]	プロジェクターのメニューや設定の名称を示しています。 例： [プロジェクター] メニューを選択します。  [プロジェクター] > [台形補正]
	関連事項を記載しているページを示しています。
	プロジェクターのメニューの階層を示しています。

▶▶ 関連項目

- 「マニュアルの使い方と情報の探し方」 [p.7](#)
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

PDFマニュアルでは、探したい情報のキーワードから該当箇所を検索したり、しおりから直接ジャンプしたりすることができます。また、必要なページだけ印刷することもできます。ここでは、PDFマニュアルをコンピュータのAdobe Reader Xで開いた場合の使い方を説明します。

▶ 関連項目

- 「キーワードで検索する」 p.7
- 「しおりから直接ジャンプする」 p.7
- 「必要なページだけ印刷する」 p.7

キーワードで検索する

[編集]メニューの[高度な検索]をクリックします。検索ボックスに探したい情報のキーワード(語句)を入力して、[検索]をクリックします。キーワードの該当箇所が一覧で表示されます。表示された文字列をクリックすると、該当ページにジャンプします。

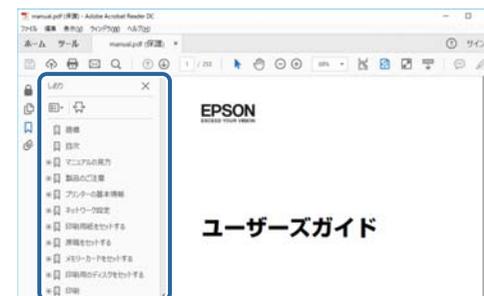


しおりから直接ジャンプする

タイトルをクリックするとそのページにジャンプします。+または>をクリックすると下の階層のタイトルが表示されます。ジャンプ前のページに戻りたいときは、キーボードで以下の操作をします。

- Windows : [Alt] キーを押したまま←キーを押します。

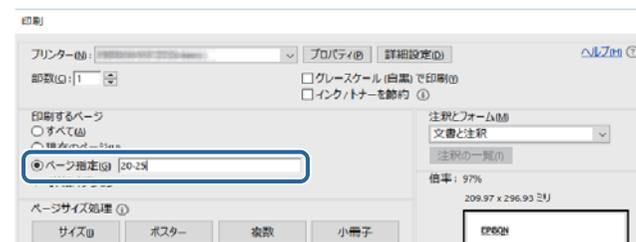
- Mac OS : commandキーを押したまま←キーを押します。



必要なページだけ印刷する

紙で読みたいページだけを抜き出して印刷できます。[ファイル]メニューの[印刷]をクリックして、[印刷するページ]の[ページ指定]で印刷したいページを指定します。

- 連続したページの指定は、開始ページと終了ページの間にハイフンを入れます。
例 : 20-25
- 連続していない複数ページの指定は、ページをカンマで区切ります。
例 : 5,10,15



説明書や仕様書の最新バージョンは、EPSONのWebサイトからダウンロードできます。

[epson.jp/support/used/ks/14.htm](https://www.epson.jp/support/used/ks/14.htm)にアクセスし、機種名を入れてください。

プロジェクターを使用する前に

本機の各部名称について説明します。

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターの各部名称と働き」 [p.10](#)

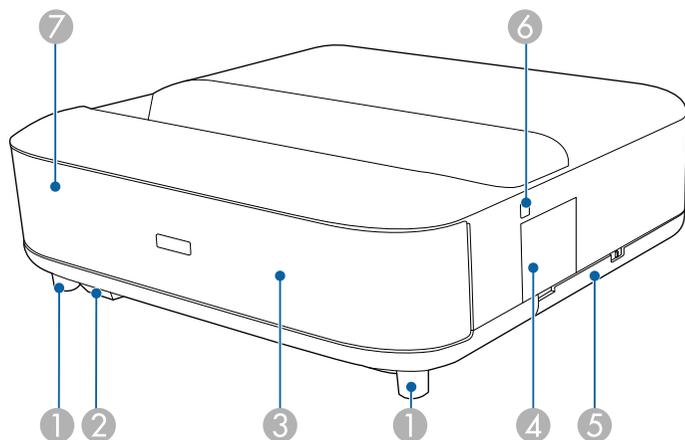
本機の各部名称とその働きについて説明します。

本機では、カメラやマイクなどのセンサーを使用することがあります。これらのセンサーは、プライバシーに関する情報（位置情報、音声、動画、画像など）を収集する場合があります。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの各部名称 - 前面/側面」 p.10
- 「プロジェクターの各部名称 - 上面/側面」 p.11
- 「プロジェクターの各部名称 - 背面」 p.12
- 「プロジェクターの各部名称 - 底面」 p.13
- 「プロジェクターの各部名称 - リモコン」 p.13

プロジェクターの各部名称 - 前面/側面



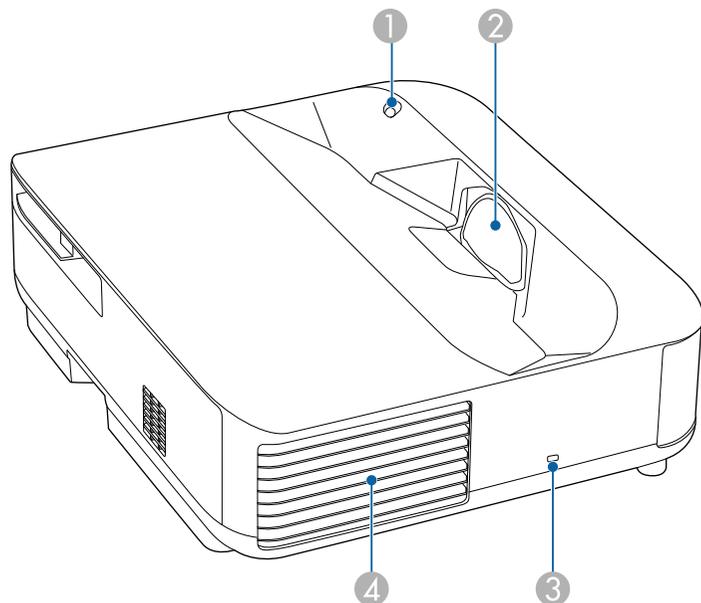
名称	働き
③ スピーカー	音声を出力します。 ⚠ 注意 この部分を持つたり、物をぶつけないでください。変形の原因となることがあります。
④ フォーカスレバーカバー	フォーカスレバーを操作するときに開閉します。
⑤ エアフィルターカバー	エアフィルターの清掃・交換時に開閉します。
⑥ 電源ボタン	本機の電源をオン/オフします。
⑦ ステータスインジケータ	本機の状態を表示します。

▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 p.24
- 「プロジェクターの電源を入れる」 p.30
- 「ピントを調整する」 p.33
- 「エアフィルターと吸気口をメンテナンスする」 p.69
- 「インジケータの見方」 p.76

名称	働き
① フロントフット	机上に設置したときに、フットを伸縮させて、映像の左右の傾きを調整します。
② リモコン受光部	リモコン信号を受信します。

プロジェクターの各部名称 - 上面/側面



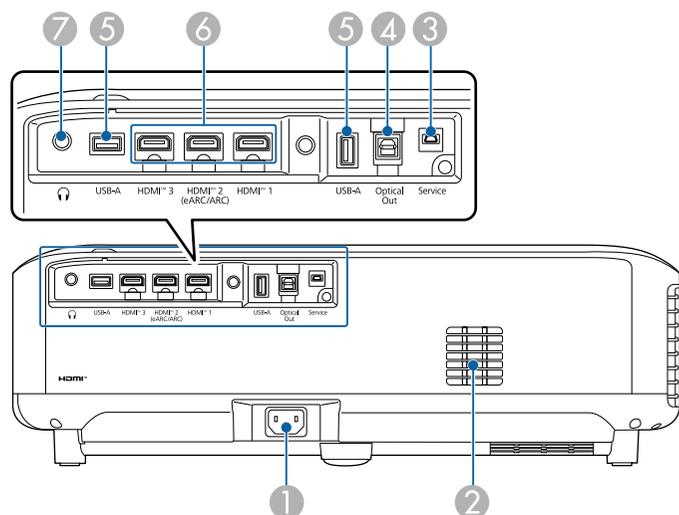
名称	働き
① モーションセンサー	<p>投写窓付近の動作を検知して、安全のため光源の明るさを落とします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> センサーの検知範囲は、使用環境の温度によって変わることがあります。</p> <p>ガラスなどの透明な素材越しでは、センサーが動作しないことがあります。</p> </div>

名称	働き
② 投写窓	<p>内部の投写レンズから映像を投写します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>⚠ 警告</p> <ul style="list-style-type: none"> 投写中は投写窓をのぞかないでください。 投写窓にものを置いたり、手を近づけたりしないでください。投写光が集束するため高温になり、やけどや変形、火災の原因になります。 </div>
③ セキュリティー slots	<p>Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティスロットです。</p>
④ 排気口	<p>本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>⚠ 注意</p> <p>投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。</p> </div>

▶▶ 関連項目

- 「モーションセンサーを清掃する」 [p.67](#)
- 「投写窓を清掃する」 [p.66](#)
- 「セキュリティケーブルを取り付ける」 [p.52](#)

プロジェクターの各部名称 - 背面



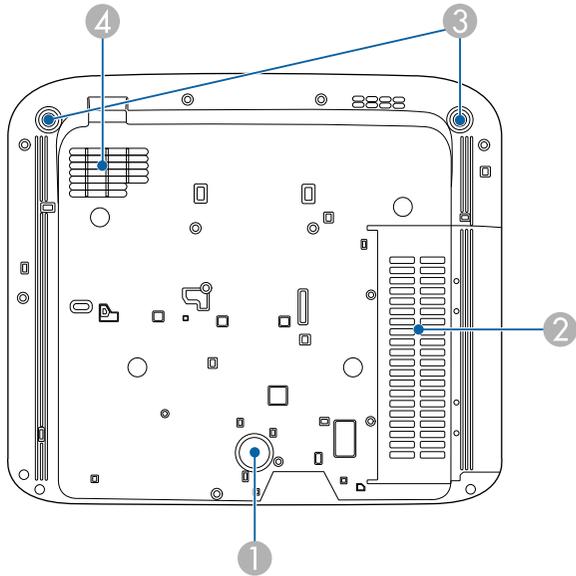
名称	働き
⑥ HDMI1端子 HDMI2 (eARC/ARC) 端子 HDMI3端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。本機はHDCP 2.3に対応しています。 HDMI2端子はHDMI eARCとARCに対応しています。各端子は以下のリフレッシュレートに対応しています。 <ul style="list-style-type: none"> • HDMI1/HDMI2端子：4K 120 Hz • HDMI3端子：4K 60 Hz
⑦ Audio Out端子	投写中の入力ソースの音声をヘッドフォンに出力します。

▶▶ 関連項目

- 「ビデオ機器を接続する」 [p.20](#)
- 「USB機器を接続する」 [p.20](#)
- 「外部オーディオ機器を接続する」 [p.21](#)
- 「eARC/ARC対応AVアンプを接続する」 [p.22](#)
- 「ヘッドフォンを接続する」 [p.23](#)

名称	働き
① 電源端子	電源コードを接続します。
② 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
③ Service端子	サービス技術者が使用する端子です。通常は使用しません。
④ Optical Out端子	光デジタルケーブルを接続して、外部のオーディオ機器に現在の入力ソースの音声を出力します。
⑤ USB-A端子	ウェブカメラ、外付けハードディスク、キーボードなどの市販のUSB機器を接続します。 市販のRJ45アダプターを接続すると、有線LANに接続できます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">  すべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。 </div>

プロジェクターの各部名称 - 底面

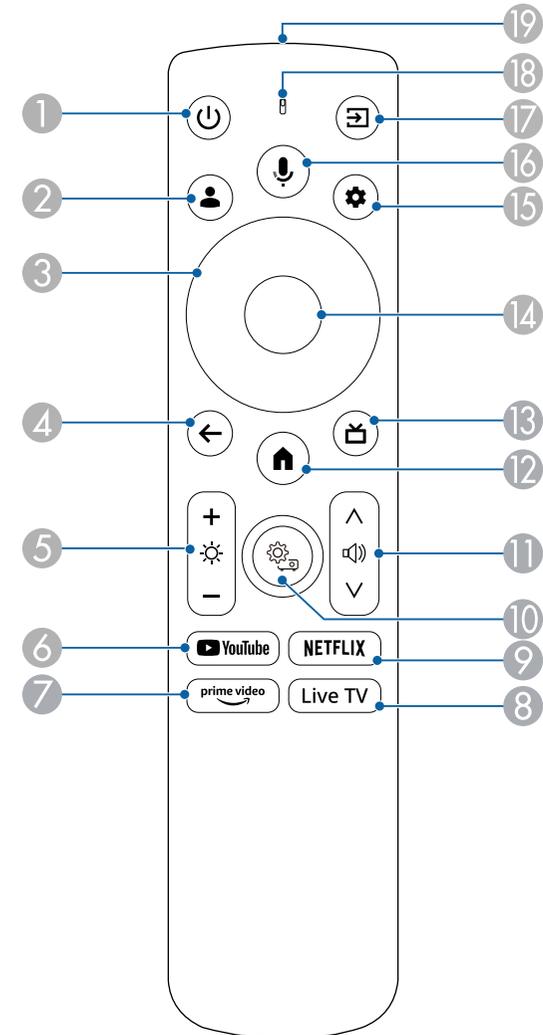


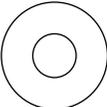
名称	働き
① リアフット	机の上に設置したときに、本体を支えます。
② 吸気口 (エアフィルタ)	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
③ フロントフット	机の上に設置したときに、フットを伸縮させて、映像の左右の傾きを調整します。
④ 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。

▶▶ 関連項目

- 「吸気口を清掃する」 [p.71](#)

プロジェクターの各部名称 - リモコン



名称	働き
① 電源ボタン 	本機の電源をオン/オフします。
② ユーザープロフィールボタン 	ユーザープロフィールを表示します。
③ 上下左右ボタン 	ホーム画面上のアイコンを選択して、オンラインコンテンツを再生します。 メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
④ 戻るボタン 	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
⑤ 明るさ調整ボタン 	映像の明るさを調整します。
⑥ YouTubeボタン 	YouTubeアプリを開きます。
⑦ Prime Videoボタン 	Amazon Prime Videoアプリを開きます。
⑧ Live TVボタン 	Live TVアプリを開きます。  Live TVは、国や言語により使用できない場合があります。

名称	働き
⑨ Netflixボタン 	Netflixアプリを開きます。
⑩ プロジェクター設定ボタン 	[プロジェクター] メニューを表示します。
⑪ 音量上げ/下げボタン 	スピーカーやヘッドフォンの音量を調整します。
⑫ ホームボタン 	ホーム画面を表示します。
⑬ HDMIボタン 	最後に表示したHDMIソースに切り替えます。
⑭ 【決定】ボタン 	メニューの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。
⑮ 設定ボタン 	ダッシュボード画面を表示します。

名称	働き
⑩ Googleアシスタントボタン 	このボタンを押して、「OK Google」と言って操作を開始します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  Googleアシスタントは、国や言語により使用できない場合があります。 </div>
⑪ 入力検出ボタン 	入力ソースの一覧を表示します。
⑫ インジケータ/マイク 	リモコン信号が出力されているときに点灯します。 Googleアシスタントボタンを押したときに、ここで音声を感知します。
⑬ リモコン発光部 	リモコン信号を出力します。

▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 [p.24](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.24](#)
- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.30](#)
- 「プロジェクターの電源を切る（サスペンド状態）」 [p.31](#)
- 「ホーム画面」 [p.26](#)
- 「光源の明るさを設定する」 [p.44](#)
- 「音量ボタンで音量を調整する」 [p.45](#)
- 「ホーム画面」 [p.26](#)
- 「投写映像を切り替える」 [p.39](#)
- 「プロジェクターメニューを操作する」 [p.56](#)

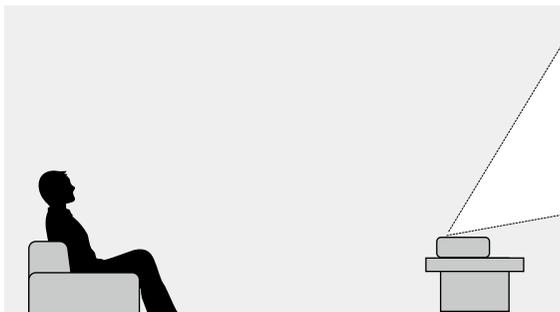
プロジェクターを準備する

プロジェクターの準備方法を説明します。

▶ 関連項目

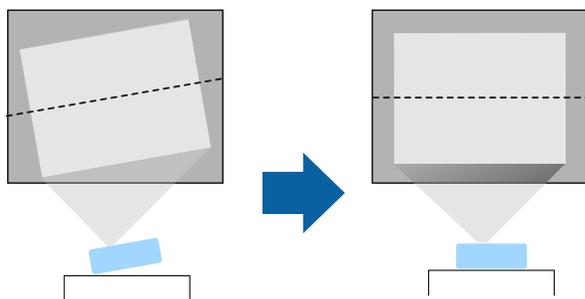
- 「プロジェクターの設置」 [p.17](#)
- 「プロジェクターを接続する」 [p.20](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.24](#)
- 「プロジェクターを設定する」 [p.26](#)
- 「Epson Projector Updateについて」 [p.28](#)

本機はリビングテーブルや低めの棚などに設置してください。

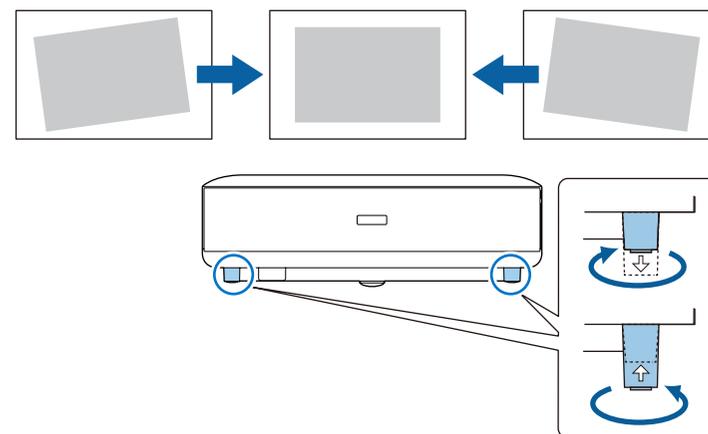


プロジェクターの設置位置を決めるときは、以下の点に注意してください。

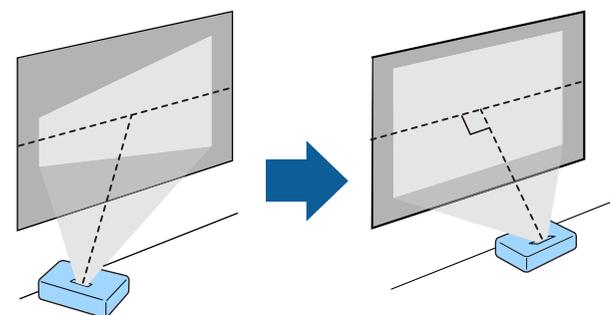
- プロジェクターは水平で安定した場所に置きます。



- 映像が傾いているときは、フロントフットを回して左右の高さを調整します。



- 通気のためにプロジェクターの周囲に十分なスペースを確保します。通気の妨げになるものをプロジェクター上面や周囲に置かないでください。
- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。



投写面に対して平行に設置できないときは、プロジェクターの機能を使って映像のゆがみを補正します。投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

⚠ 警告

湿気やホコリの多い場所や、油煙や湯気が当たる場所（調理場所、ご家庭のキッチン、加湿器の近くなど）にプロジェクターを設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

⚠ 警告

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ホコリや塵の多い場所で使用・保管はしないでください。投写映像の品質が劣化したり、エアフィルターにホコリが詰まって、故障や火災につながる可能性があります。
- 不安定な場所や荷重範囲を超える場所には設置しないでください。落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- 塩害が発生する場所や、温泉の硫黄ガスなどの腐食性ガスが発生する場所には設置しないでください。腐食による落下の原因となることがあります。また、本機の故障の原因となることがあります。

注意

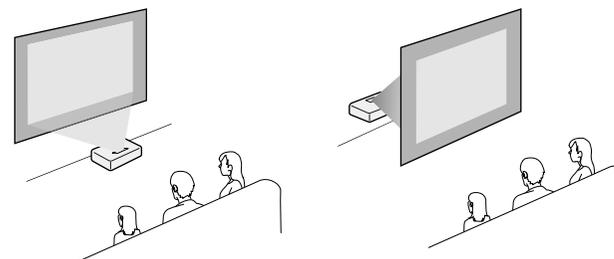
- 本機を以下の状態で投写しないでください。
 - 縦置きして投写しない
 - 上または下に向けて投写しない
 - 左右に傾けて投写しない
- 本機を標高1,500m以上の場所で使用するときは、[高地モード]を[オン]にして、本機の内部温度が適切に調節されるようにしてください。
☛ [プロジェクター] > [詳細設定] > [高地モード]

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターの設置・取り付け」 p.18
- 「設置に関するご注意」 p.19

プロジェクターの設置・取り付け

本機は以下の方法で設置・取り付けできます。
フロント/リア



[設置モード]の初期設定は[フロント]です。

▶▶ 関連項目

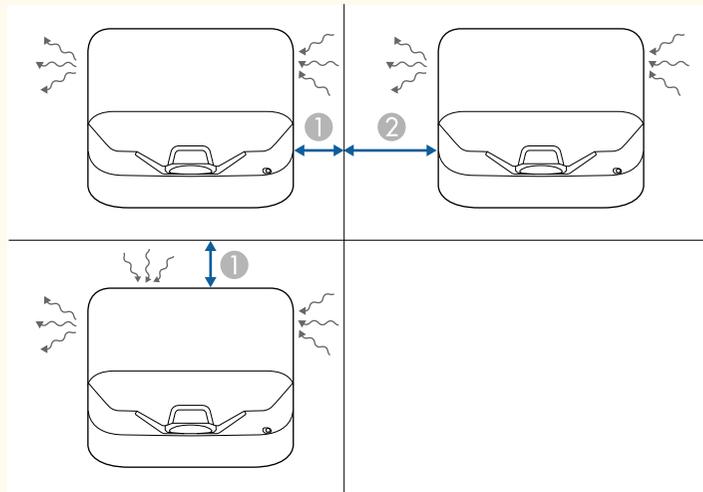
- 「メニューから設置モードを変更する」 p.32

設置に関するご注意

設置スペース

注意

吸気口・排気口をふさがないように、本機の周辺には以下のスペースを確保してください。



① 10 cm

② 30 cm

- 棚や箱の中などの、空気が循環しない場所には設置しないでください。棚や箱（エンクロージャー）の中などに設置したいときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- プロジェクターの周囲に十分なスペースがなく、プロジェクターの内部温度が上昇すると、光源の明るさが低下することがあります。
- 排気口からの熱風が障害物に当たって吸気口に入りこまないように、プロジェクター周辺の障害物を取り除いてください。

プロジェクターと映像機器の接続方法を説明します。

注意

接続する前に、使用するケーブルのコネクターの形状と向きを確認してください。形状が合わないコネクターを無理に端子に押し込まないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。

▶ 関連項目

- 「ビデオ機器を接続する」 p.20
- 「USB機器を接続する」 p.20
- 「外部オーディオ機器を接続する」 p.21
- 「eARC/ARC対応AVアンプを接続する」 p.22
- 「ヘッドフォンを接続する」 p.23

ビデオ機器を接続する

HDMI端子を搭載したビデオ機器があれば、HDMIケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続して映像と音声を出力できます。

注意

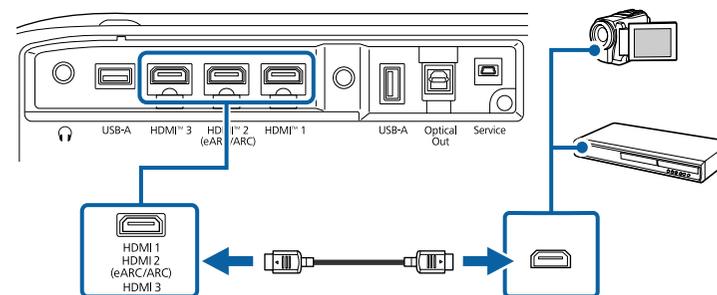
あらかじめビデオ機器の電源を切ってください。ビデオ機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。



- 接続する機器の端子が特有の形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- ビデオ機器によっては、数種類の信号を出力できます。出力できる信号の種類は、お使いのビデオ機器に同梱の取扱説明書で確認してください。
- 4K 60Hz 4:4:4などの18 Gbps伝送帯域の信号を投写するときは、プレミアムハイスピードのHDMIケーブルをお使いください。適合していないケーブルを使用すると、正しく表示できないことがあります。
- ゲーム機を接続するときは、リフレッシュレート 120 Hz対応端子（HDMI1、またはHDMI2）に接続することをおすすめします。映像信号ごとのリフレッシュレートと解像度についての詳細は『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

1 ビデオ機器のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



USB機器を接続する

以下のUSB機器をプロジェクターに接続すると、コンピューターやビデオ機器を接続しなくても映像を投写したり、音声を再生したりできます。

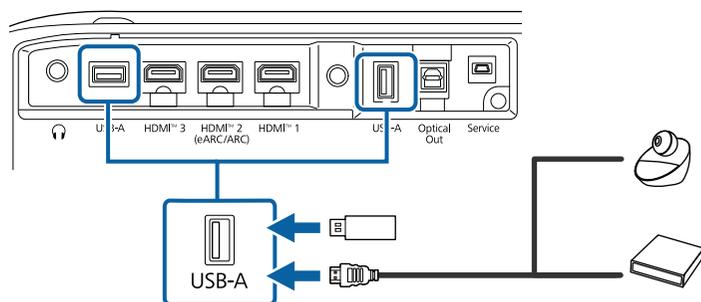
- マイク
- USBメモリー
- デジタルカメラ
- USBハードドライブ



- USB-A端子はすべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。
- USB機器からコンテンツを投写するにはアプリが必要です。
- USBハードドライブは以下の要件を満たしている必要があります。
 - USBマストレージクラスに準拠していること（対応していないUSBマストレージクラスの機器もあります）
 - フォーマット形式がFAT16/32であること
 - USBハードドライブに付属のACアダプターから電源供給ができること（USBケーブルから電源供給を受けるハードドライブは推奨しません）
 - ハードドライブのパーティションは1つのみであること

1 USB機器に電源アダプターが付属しているときは、USB機器をコンセントに接続します。

2 本機のUSB-A端子に、以下のようにUSB機器を接続します。



注意

- USB機器に付属のUSBケーブル、または指定されたUSBケーブルを使用してください。
- USBケーブルが長すぎると機器が正しく動作しないことがあります。USBケーブルの長さは3m以下のものを推奨します。
- USBハブを使うと機器が正しく動作しないことがあります。事前に動作確認を行うことを推奨します。

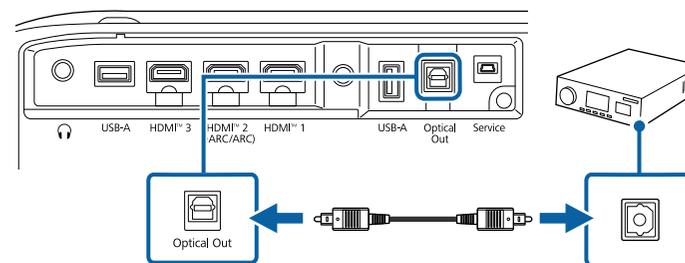
3 USBケーブルのもう一方のコネクターをUSB機器に接続します。

外部オーディオ機器を接続する

お使いのアンプやスピーカーに光デジタル音声入力端子があるときは、市販の光デジタルケーブルを使ってこれらの機器に音声を出力できます。

1 オーディオ機器の光デジタル音声入力端子に、光デジタルケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のOptical Out端子に接続します。





[オーディオ出力デバイス] を [SPDIF] に設定すると、音声はオーディオ機器からのみ出力され、本機のスピーカーからは出力されません。

☛ [ディスプレイと音] > [オーディオ出力] > [オーディオ出力デバイス]

▶ 関連項目

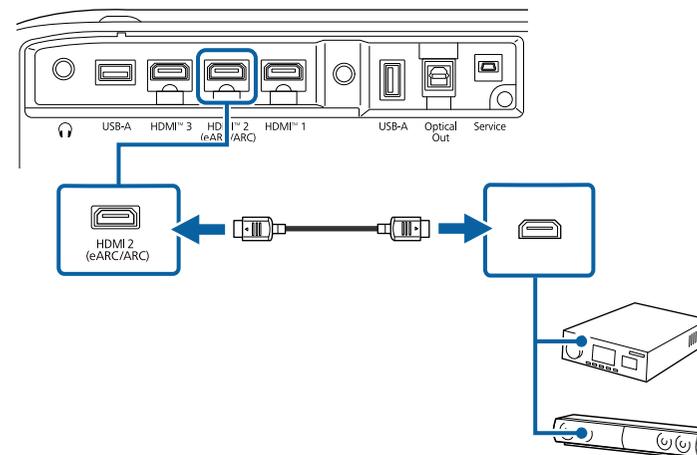
- 「ディスプレイと音メニュー」 p.59

eARC/ARC対応AVアンプを接続する

AVアンプやサウンドバーなどの外部スピーカーを使用するとき、これらの機器がHDMI端子を搭載していれば、イーサネット対応のHDMIケーブルを使って音声を出力できます。

- 1 アンプのHDMI出力端子（eARCまたはARC対応）にHDMIケーブルを接続します。

- 2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI2 (eARC/ARC)端子に接続します。



- 3 必要に応じてAVアンプやスピーカーの設定をします。詳しくはお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。



- ARC接続で、本機のHDMI2 (eARC/ARC)端子から音声を出力するには、メニューで [グローバルなCECコントロール] を [オン] に設定します。
 - ☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]
- 音声が正しく出力されないときは、 [デジタル出力] の設定を [自動] から [PCM] に変更してみてください。
 - ☛ [ディスプレイと音] > [オーディオ出力] > [デジタル出力]
- eARC/ARCの対応音声形式について詳しくは、『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

▶ 関連項目

- 「チャンネルと入力メニュー」 p.57
- 「ディスプレイと音メニュー」 p.59

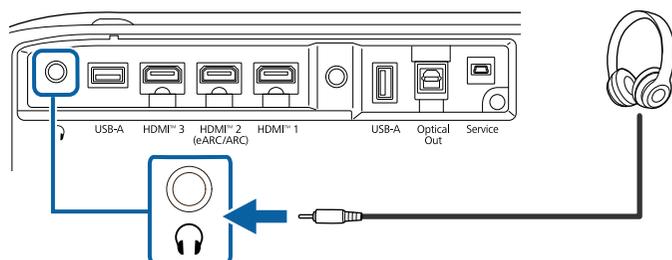
ヘッドフォンを接続する

本機のAudio Out端子にはヘッドフォンを接続できます。本機のリモコンで音量を調整できます。

注意

本機のAudio Out端子は3極プラグのヘッドフォン専用です。3極プラグ以外のヘッドフォンを接続すると、音声は正常に再生されない可能性があります。

- 1 ヘッドフォンのケーブルを本機のAudio Out端子に接続します。



⚠ 注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

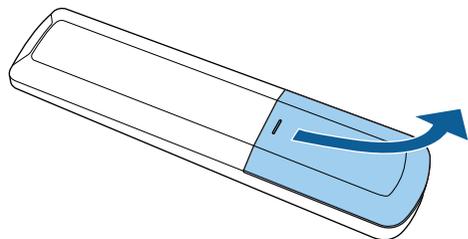
電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

本機に付属の単4形電池2個をリモコンに取り付けます。

注意

電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

- 1 電池カバーを外します。

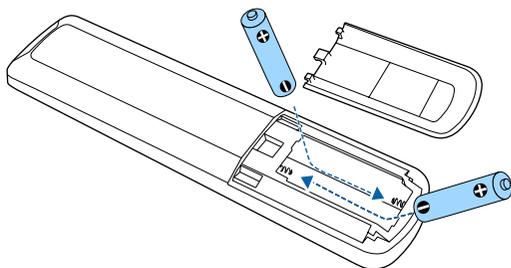


- 2 古い電池が入っていれば取り外します。



使用済みの電池は、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

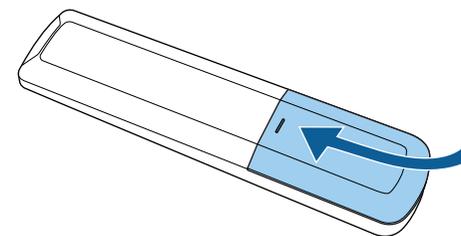
- 3 電池の + と - の向きを確認してリモコンにセットします。



警告

電池ホルダー内の表示を確認して、(+) (-) を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

- 4 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



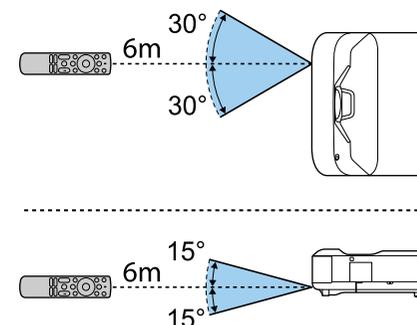
▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 p.24

リモコンを操作する

リモコンを使用して、室内の離れた場所からプロジェクターを操作できます。

リモコンは、本機のリモコン受光部に対して下図の角度で使用することをお勧めします。





蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境でリモコンを使用すると、本機が正しく動作しないことがあります。リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外しておきます。

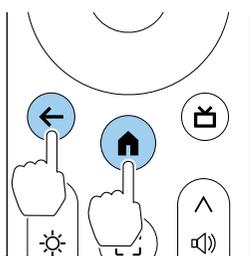
初めて本機の電源を入れたときには、初期設定が必要です。



初期設定が完了した後も、設定はいつでも変更できます。

1 本機の電源を入れます。

2 ペアリング画面が表示されたら、リモコンのボタンとボタンを同時に長押しして、本機とリモコンをペアリングしてください。



- ペアリングを行うときは、リモコンを本機から30 cm以内に近づけてください。
- ペアリングが始まると、リモコンのインジケーターが点滅します。終了すると、インジケーターは消灯します。
- 本機と複数のリモコンを同時にペアリングすることはできません。新しいリモコンをペアリングすると、既存のリモコンのペアリングは解除されます。意図したリモコンがペアリングされていることを確認してください。

3 言語選択画面が表示されたら、使用したい言語を選択します。次に、画面の指示に従って、お住まいの国と地域を設定します。

4 設定画面が表示されたら、画面の指示に従って必要な初期設定をします。



- より詳細な設定をするために、Googleアカウントでログインすることをお勧めします。
- Googleアカウントの作成方法については、Googleにお問い合わせいただくか、以下のWebサイトをご参照ください。
[Googleアカウントヘルプ](#)

5 Wi-Fi設定画面が表示されたら、接続する無線LANを選択します。画面の指示に従って必要な設定をします。

- オンラインコンテンツを視聴するには、インターネット接続が必要です。Wi-Fiが使用できることを確認してください。
- アプリのダウンロードやオンラインコンテンツを視聴する際の通信料はお客様の負担となります。

6 画面の指示に従って、その他の設定をします。

7 Epsonのライセンス規約に同意すると、初期設定ウィザードが終了します。

初期設定が完了すると、ホーム画面が表示されます。

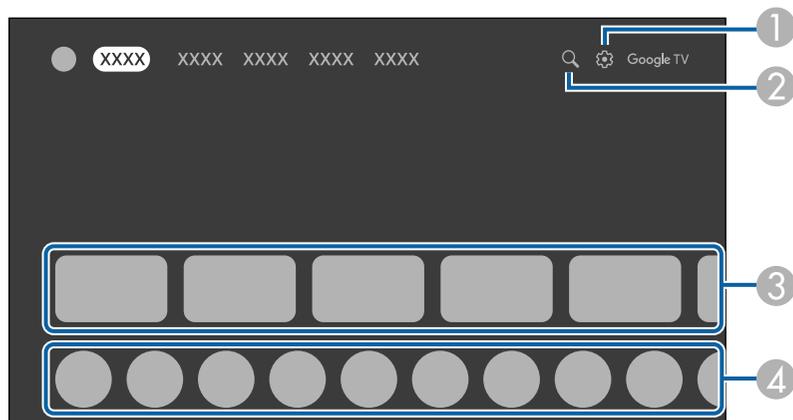
▶ 関連項目

- 「ホーム画面」 [p.26](#)

ホーム画面

本機の電源を入れたときや、ボタンを押したときには、ホーム画面が表示されます。

ホーム画面を使うと、おすすめのオンラインコンテンツやアプリなどを簡単に選択できます。



	説明
①	ダッシュボードを表示します。
②	オンラインコンテンツを検索します。
③	おすすめのオンラインコンテンツを表示します。
④	ダウンロードしたアプリを表示します。



ホーム画面の内容は、プロジェクターファームウェアのバージョンによって異なります。

Epson Projector Updateアプリを使って、プロジェクターファームウェアを更新することができます。製品を快適にお使いいただくために、最新のファームウェアをお使いください。アプリをインストールし、アプリを起動して、ファームウェアが最新であることを確認してください。



Epson Projector Updateは、本機の初期設定ウィザードで自動インストールされます。自動インストールするためには、Googleアカウントでログインし、Wi-Fiを設定して、インターネットに接続してください。

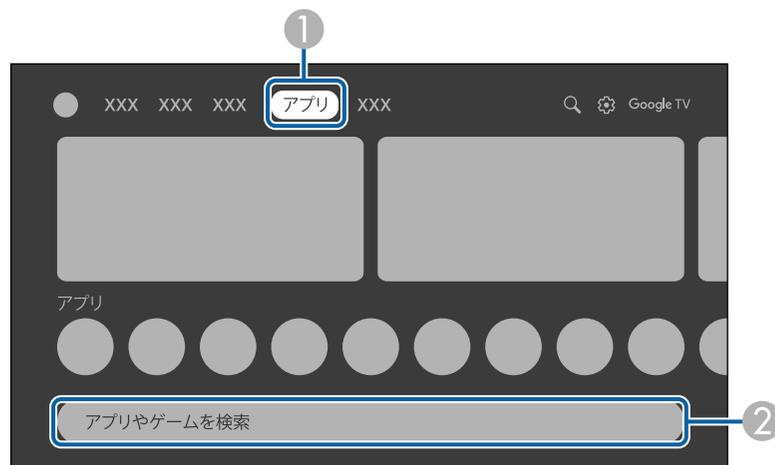
▶ 関連項目

- 「Epson Projector Updateをインストールする」 [p.28](#)

Epson Projector Updateをインストールする

以下の手順でEpson Projector Updateをインストールします。

- 1** ホーム画面上部の [アプリ] を選択し、検索ウィンドウを選択します。



- 2** 「Epson Projector Update」を検索して、インストールします。



Epson Projector Update 🔍

- 3** Epson Projector Updateを起動して、最新のプロジェクターファームウェアがインストールされていることを確認します。

▶ 関連項目

- 「Epson Projector Updateでファームウェアを更新する」 [p.53](#)

プロジェクターの基本機能を使用する

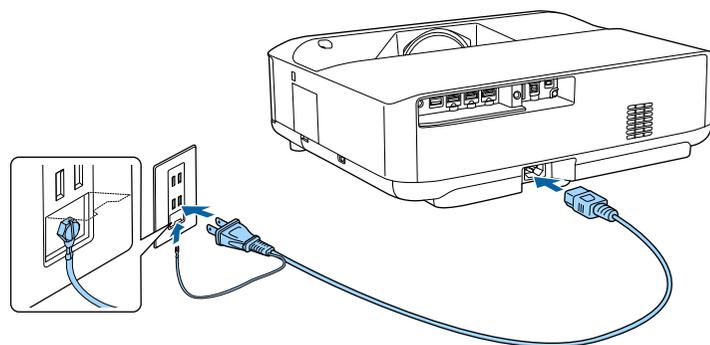
プロジェクターの基本機能を説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.30](#)
- 「プロジェクターの電源を切る（サスペンド状態）」 [p.31](#)
- 「設置モードを選択する」 [p.32](#)
- 「ピントを調整する」 [p.33](#)
- 「映像のゆがみを補正する」 [p.34](#)
- 「映像の色味を調整する」 [p.37](#)
- 「映像のサイズと位置を調整する」 [p.38](#)
- 「投写映像を切り替える」 [p.39](#)
- 「映像のアスペクト比を設定する」 [p.40](#)
- 「映像を最適化する（カラーモード）」 [p.41](#)
- 「映像を最適化する（詳細設定）」 [p.42](#)
- 「映像の光量を調整する」 [p.43](#)
- 「光源の明るさを設定する」 [p.44](#)
- 「音量ボタンで音量を調整する」 [p.45](#)
- 「サウンドモードを切り替える」 [p.46](#)

本機にビデオ機器を接続するときは、本機の電源を入れてから、ビデオ機器の電源を入れます。

- 1 本機とコンセントを電源コードで接続します。



⚠ 警告

必ず接地接続を行ってください。接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

本機はスタンバイ状態になります。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

- 2 プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押して電源を入れます。

ステータスインジケータが白く点灯します。

最初に本機の電源を入れたときは、リモコンのペアリング画面と初期設定画面が表示されます。画面の指示に従って、設定してください。

⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様の行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に本などで投写光を遮らないでください。投写光を遮ると、光の当たった部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因になります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機が故障する原因となります。投写を中断するときは、本機の電源を切ってください。



標高1,500m以上の場所でお使いのときは、[高地モード]を[オン]に設定します。

☞ [プロジェクター] > [詳細設定] > [高地モード]

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターを設定する」 p.26
- 「プロジェクターメニュー」 p.58

使用後にプロジェクターの電源を切ります。



本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、環境条件や使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、使用時間の経過にともなって低下します。

- 1** プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押します。
光源がオフになり、ステータスインジケータが消灯します。本機はサスペンド状態になります。
- 2** 本機を搬送または保管するときは、ステータスインジケータが消灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を切る（ディープスタンバイ状態）」 [p.31](#)

プロジェクターの電源を切る（ディープスタンバイ状態）

本機を使用していないとき、消費電力を抑えるには、リモコンで本機の電源を完全にオフにします。



- ディープスタンバイ状態では、サスペンド状態よりも消費電力が少なくなります。
- ただし、次回電源を入れたときの起動時間は、サスペンド状態よりも長くなります。

- 1** リモコンの電源ボタンを長押しします。

- 2** 確認画面で [OK] を選択します。
光源がオフになり、ステータスインジケータが消灯します。本機はディープスタンバイ状態になり、消費電力が抑えられます。
- 3** 本機を搬送または保管するときは、ステータスインジケータが消灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。

プロジェクターの設置方法によって、設置モードを変更します。

- [フロント]：机上に設置して、スクリーンの正面から投写します。
- [リア]：リアスクリーンの裏側から映像を左右反転して投写します。

▶ 関連項目

- 「メニューから設置モードを変更する」 [p.32](#)
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.18](#)

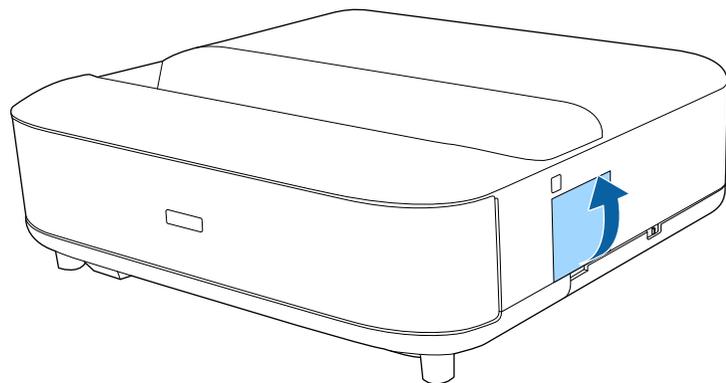
メニューから設置モードを変更する

メニューから設置モードを変更して、映像を左右反転します。

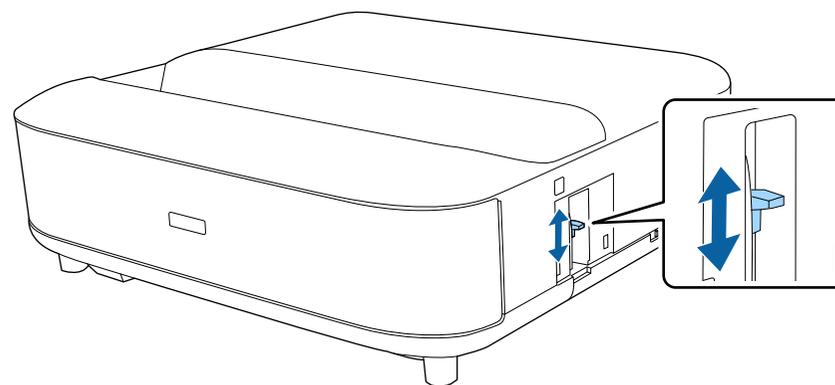
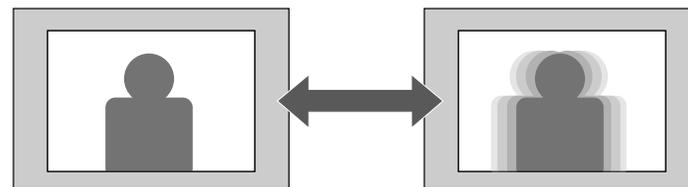
- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押して、[プロジェクター] メニューを表示します。
- 3** 以下の順序でメニューを選択します。
☛ [詳細設定] > [設置モード]
- 4** お使いの環境に合わせた設置モードを選択して【決定】ボタンを押します。
- 5**  ボタンを押してメニューを終了します。

フォーカスレバーを使用して、ピントのズレを補正します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 フォーカスレバーカバーを開きます。



- 3 フォーカスレバーを動かして、ピントを合わせます。

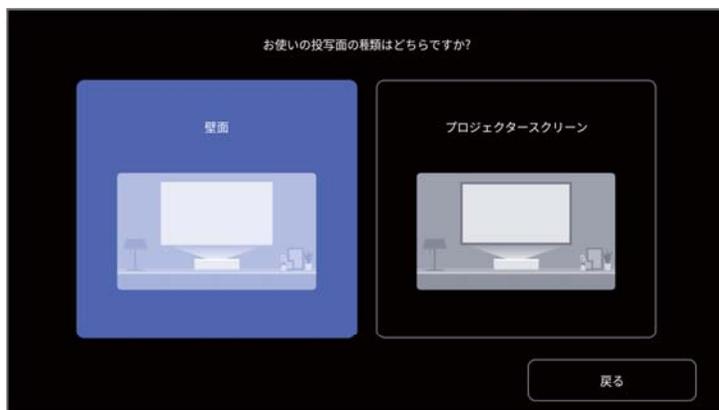


- 4 フォーカスレバーカバーを閉じます。

投写映像が湾曲しているときや、長方形でないときは、画面の指示に従って映像のゆがみを補正します。

補正後は、映像が少し小さくなります。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押して、[プロジェクター] メニューを表示します。
- 3 [台形補正] を選択します。
- 4 [リモコン] を選択します。
以下の画面が表示されます。



カメラ機能付きのスマートフォンやタブレットでEpson Setting Assistantを使うと、より簡単にゆがみを補正することができます。[アプリ] を選択し、画面に表示されるQRコードを読み取って、アプリをインストールしてください。アプリをダウンロードする際の通信料はお客様の負担となります。

- 5 映像の投写面（[壁面]、または [プロジェクタースクリーン]）を選択します。

- 6 画面の指示に従って、映像のゆがみを補正します。

- 7  ボタンを押してメニューを終了します。



補正方法の詳細は、以下のセクションをご覧ください。

▶ 関連項目

- 「壁に投写するとき」 [p.34](#)
- 「スクリーンに投写するとき」 [p.35](#)

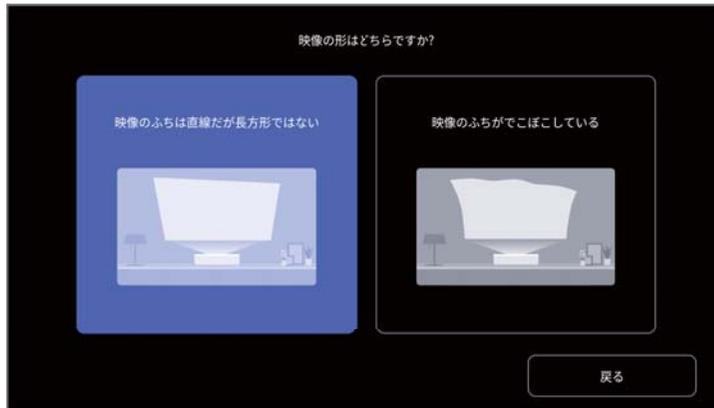
壁に投写するとき

映像を壁に投写するときは、[壁面] を選択して、以下の手順に従ってください。



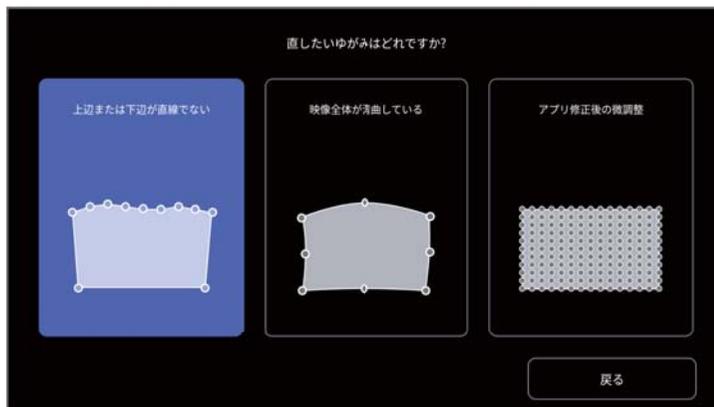
補正方法を選択するときに、「すべての映像ゆがみ補正をリセットしますか?」と表示されたら、[はい] を選択します。

1 映像のゆがみ方を選択します。



- [映像のふちは直線だが長方形ではない]：
4点補正画面が表示されます。補正したいポイントを選択して、ゆがみを補正します。
- [映像のふちがでこぼこしている]：
手順2に進み、補正したいゆがみを選択します。

2 映像のどの部分がゆがんでいるかを選択します。



- [上辺または下辺が直線でない]：
11点補正画面（上辺9ポイント、下辺2ポイント）が表示されます。補正したいポイントを選択して、ゆがみを補正します。
- [映像全体が湾曲している]：
8点補正画面が表示されます。補正したいポイントを選択して、ゆがみを補正します。
- [アプリ修正後の微調整]：
ポイント補正画面（33×33ポイント）が表示されます。補正したいポイントを選択して、ゆがみを補正します。

3 補正が終了したら、[終了] を選択します。

スクリーンに投写するとき

映像をスクリーンに投写するときは、[プロジェクタースクリーン] を選択して、以下の手順に従ってください。



補正方法を選択するときに、「すべての映像ゆがみ補正をリセットしますか?」と表示されたら、[はい] を選択します。

- 1 画面の指示に従って、本機を動かします。



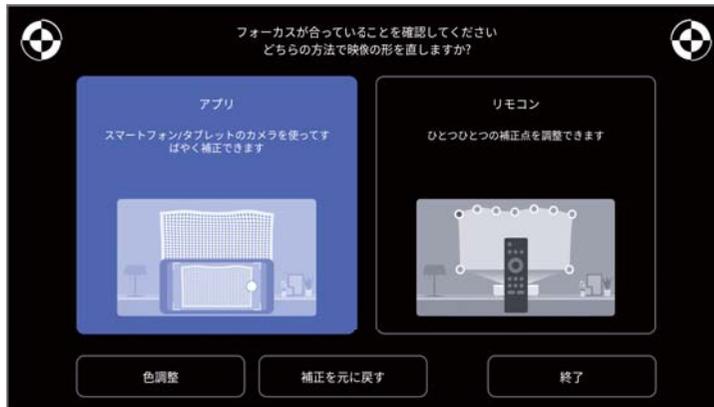
- 2 [次へ] を選択します。
4点補正画面が表示されます。
- 3 補正したいポイントを選択して、ゆがみを補正します。
- 4 必要に応じて [8点補正] を選択し、8点補正画面を表示して、ゆがみを補正します。
- 5 補正が終了したら、[終了] を選択します。

あらかじめ用意されている設定を使用して、投写面（壁やスクリーン）の色に合わせて映像の色を調整できます。



より詳細な色の調整は、[ディスプレイと音] メニューから行うことができます。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押して、[プロジェクター] メニューを表示します。
- 3 [台形補正] を選択します。
以下の画面が表示されます。



- 4 [色調整] を選択します。

- 5 投写面の色に近い色を選択して、[OK] を選択します。



- 6  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音メニュー」 [p.59](#)

[ズーム&シフト] 機能を使って映像のサイズと位置を調整できます。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押して、[プロジェクター] メニューを表示します。
- 3 [ズーム&シフト] を選択します。
ズーム調整画面が表示されます。



- 4 左右ボタンで映像のサイズを調整します。
- 5 【決定】 ボタンを押します。
[シフトモード] に切り替わり、位置調整画面が表示されます。



- 6 上下左右ボタンで映像の位置を調整します。
- 7  ボタンを押してメニューを終了します。

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニュー」 [p.58](#)

コンピューターとDVDプレーヤーなど複数の機器をプロジェクターに接続しているときは、投写する映像を切り替えます。

- 1** 接続機器の電源が入っていることを確認します。
- 2** ビデオ機器の映像を表示するときは、DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- 3** リモコンの  ボタンを押します。
- 4** 上下ボタンで投写したい映像を選択します。



映像が表示されないときは、本機とビデオ機器が正しく接続されていることを確認してください。

本機はさまざまな縦横比（アスペクト比）で映像を表示できます。通常は、接続機器からの入力信号によって映像のアスペクト比が決まります。映像をスクリーンに合わせるために、手動でアスペクト比を切り替えることもできます。

常に特定のアスペクト比で投写するときは、[画面] メニューでアスペクト比を設定します。



入力ソースがHDMIのときに設定できます。

▶ 関連項目

- 「映像のアスペクト比を切り替える」 p.40
- 「アスペクトモードの種類」 p.40

映像のアスペクト比を切り替える

投写する映像のアスペクト比を切り替えます。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3 ダッシュボードで  を選択します。
- 4 以下の順序でメニューを選択します。
☛ [ディスプレイと音] > [画面]
- 5 入力信号に合わせてアスペクト比を選択します。
- 6  ボタンを押してメニューを終了します。

アスペクトモードの種類

以下のアスペクト比を選択できます。



著作権法で保護されている映像をアスペクト機能で圧縮、引き伸ばし、分割などを行い、営利目的で公衆に視聴させた場合は、著作権者の権利を侵害するおそれがあります。

アスペクトモード	説明
スーパーズーム	映像を拡大表示します。上下左右の端が欠けます。
4:3	映像を4:3で表示します。
映画（14:9に拡大）	映像を14:9で表示します。
映画（16:9に拡大）	映像を16:9で表示します。
フル	投写エリア全体に映像を表示します。
未調整	ネイティブアスペクトで映像を表示します。

本機は、投写環境や映像の種類に応じて、明るさ、コントラスト、色を最適化するためのカラーモードを用意しています。環境や映像の種類に合ったカラーモードを選択できます。

▶ 関連項目

- 「カラーモードを変更する」 p.41
- 「カラーモードの種類」 p.41

カラーモードを変更する

カラーモードを変更して、映像を最適化します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3** ダッシュボードで  を選択します。
- 4** 以下の順序でメニューを選択します。
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [画像モード]
- 5** お好みのカラーモードを一覧から選択します。
- 6**  ボタンを押してメニューを終了します。

カラーモードの種類

投写環境や映像の種類に応じて、以下のカラーモードを設定できます。

カラーモード	説明
ダイナミック	最も明るいモードです。明るさを優先したい場合に適しています。
標準	明るさと鮮やかさのバランスを重視した標準的なモードです。通常は [標準] がお勧めです。
シネマ	映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
ナチュラル	自然な色合いのモードです。映像の色調整を行うときは、本モードを選択することをお勧めします。

[ディスプレイ] メニューには、現在投写中の入力ソースに応じて画質を調整する設定があります。投写映像の品質と色合いを細かく調整できます。

☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ]

画質の調整について詳しくは、「ディスプレイと音メニュー」を参照してください。

▶▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音メニュー」 [p.59](#)

[ダイナミックコントラスト] をオンにすると、映像の明るさに合わせてプロジェクターの光量を自動的に調整することで、コントラストを改善します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3** ダッシュボードで  を選択します。
- 4** 以下の順序でメニューを選択します。
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [詳細設定] > [ダイナミックコントラスト]
- 5** 次のいずれかを選択します。
 - [オフ]：光量調整を行わないときに選択します。
 - [ノーマル]：標準の光量調整を行います。
 - [高速]：シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整します。
- 6**  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音 メニュー」 [p.59](#)

光源の明るさを設定します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの上下ボタンを押します。
[レーザーライト出力] 調整ゲージが表示されます。
- 3** 上下ボタンを押して調整します。
- 4** ボタンを押してメニューを終了します。

音量ボタンは、プロジェクターの内蔵スピーカーの音量を調整します。プロジェクターに接続している外部スピーカーの音量を調整することもできます。

音量は接続した入力ソースごとに調整する必要があります。



プロジェクターに接続されているAV機器の音量を調整するときは、メニューで [グローバルなCECコントロール] を [オン] に設定します。

☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  上下ボタンを押して、音量を調整します。
音量調節画面が表示されます。

注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

▶▶ 関連項目

- 「チャンネルと入力メニュー」 [p.57](#)

本機は、投写映像の種類に応じて、音声を最適化するためのサウンドモードを用意しています。

映像の種類や投写環境に合ったサウンドを選択できます。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3 ダッシュボードで  を選択します。
- 4 以下の順序でメニューを選択します。
☛ [ディスプレイと音] > [音] > [サウンドモード]
- 5 お好みのサウンドモードを選択します。
- 6  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- 「サウンドモードの種類」 [p.46](#)

サウンドモード	説明
ミュージック	音楽に適しています。低音、高音がクリアに再生されます。
標準	すべての映像に適したサウンドモードです。

サウンドモードの種類

投写している映像の種類に応じて、以下のサウンドモードを設定できます。

サウンドモード	説明
シネマ	映画を楽しむのに適しています。低音、高音が強調されます。
ニュース	ボーカルやせりふを聴きやすくします。

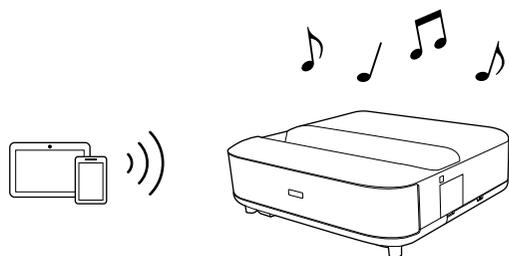
プロジェクターの便利な機能

プロジェクターの各機能を使用します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターをBluetooth®スピーカーとして使用する」 [p.48](#)
- 「映像を一時的に遮断する」 [p.49](#)
- 「Google Cast™を使用する」 [p.50](#)
- 「HDMI CEC機能」 [p.51](#)
- 「セキュリティーケーブルを取り付ける」 [p.52](#)
- 「Epson Projector Updateでファームウェアを更新する」 [p.53](#)
- 「プロジェクターを初期化する」 [p.54](#)

Bluetoothで接続したオーディオ機器から、本機のスピーカーに音声を出力できます。



- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押して、[プロジェクター] メニューを表示します。
- 3** [Bluetoothスピーカーモード] を選択します。
[Bluetoothスピーカーモード] 画面が表示されます。
- 4** 接続するオーディオ機器のBluetooth機能をオンにして、機器の一覧からプロジェクター名（本機）を選択します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。



- [デバイス名] メニューでプロジェクターの名前を確認、変更できます。
☛ [システム] > [デバイス情報] > [デバイス名]
- Bluetooth接続を切断するときは、接続機器のメニューから切断してください。

Bluetooth接続が確立して10秒経過すると、投写映像が消えます。

- 5** [Bluetoothスピーカーモード] を終了するときは、 ボタンを押します。

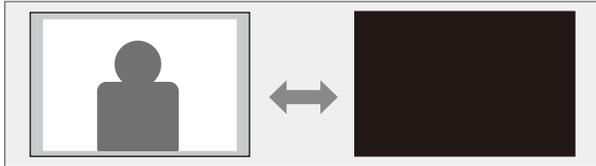


- Bluetooth接続したオーディオ機器で再生される音声には遅延が生じます。
- Bluetoothで複数のオーディオ機器を同時に接続することはできません。
- Bluetooth対応のスピーカーやヘッドフォンを接続して、本機の音声をこれらの機器に出力することもできます。以下の順序でメニューを選択し、画面の指示に従ってペアリングしてください。
☛ [リモコンとアクセサリ] > [アクセサリのペア設定]
- Bluetoothオーディオ機器は一部の国と地域では使用できません。

▶▶ 関連項目

- 「Bluetooth仕様」 [p.93](#)

投写中の映像を一時的に消します。



- 1** リモコンの⚙️ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 2** ダッシュボードで⚙️を選択します。
- 3** 以下の順序でメニューを選択します。
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [詳細設定]
- 4** [画像OFF] を選択して映像を停止します。
- 5** 映像を再開するときは、⏪ボタンを押します。

▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音メニュー」 [p.59](#)

Google Cast を使用すると、スマートフォン、タブレット、ノートパソコンのお好きなアプリから、プロジェクターにコンテンツをストリーミング配信できます。

- 1** お使いの機器またはコンピューターを、本機と同じ無線LANネットワークに接続します。
- 2** Google Cast 対応のアプリを開き、を選択します。
- 3** デバイスの一覧から、本機を選択してください。



[デバイス名] メニューでプロジェクターの名前を確認、変更できます。

☞ [システム] > [デバイス情報] > [デバイス名]

アプリが接続されて、プロジェクターへのキャストを開始します。

- 4** キャストを終了するには、アプリのを選択して、切断を選択します。

本機のHDMI端子にHDMI CEC規格に対応したAV機器を接続すると、接続機器同士の連携動作が本機のリモコンで操作できます。

▶ 関連項目

- 「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 p.51

HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する

HDMI CEC機能を使って、接続したオーディオ機器を本機のリモコンで操作します。



- 接続機器側の設定も必要です。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI CEC規格に対応していても動作しない接続機器や、動作しない機能があります。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ケーブルがHDMIの規格に対応していないと動作しません。

1 リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。

2 ダッシュボードで  を選択します。

3 以下の順序でメニューを選択します。

☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]

4 [グローバルなCECコントロール] をオンにします。

5 必要に応じて、以下の項目を設定します。

- [接続されたデバイスをテレビでOFFにすることを許可]：本機の電源オフに連動して、接続機器の電源を切るときはオンにします。
- [接続されたデバイスでテレビをONにすることを許可する]：接続機器の電源オンに連動して、本機の電源を入れるときはオンにします。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

本機のリモコンを使って接続機器の再生、停止、音量調整などの操作ができます。

▶ 関連項目

- 「チャンネルと入力メニュー」 p.57

盗難防止のために、Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティーシステムを、本機のセキュリティースロットに取り付けることができます。



マイクロサーバーセキュリティーシステムについての詳細は、<http://www.kensington.com/>をご覧ください。

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターの各部名称 - 上面/側面」 p.11

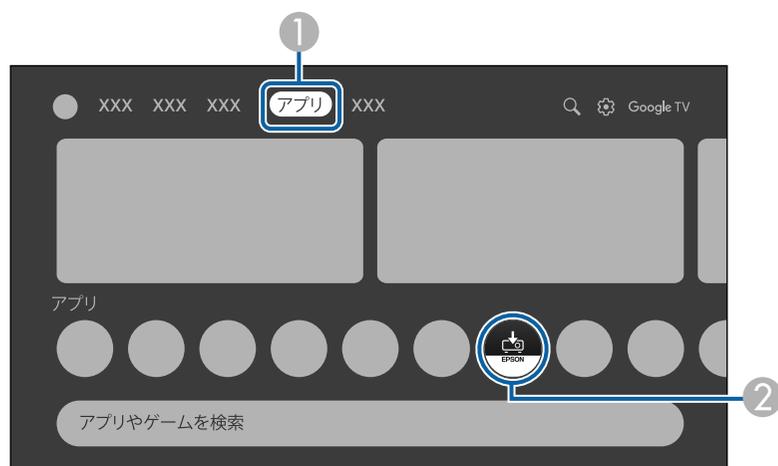
Epson Projector Updateアプリを使って、プロジェクターファームウェアを最新の状態に更新できます。



- Epson Projector Updateがインストールされていないときは、ホーム画面からインストールします。必ずアプリをインストールして、最新のファームウェアに更新してください。
- 最新のプロジェクターファームウェアが利用可能な場合は、ホーム画面に通知が表示されます。画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。
- 内部ストレージの空き容量が不足していると、アップデートに失敗することがあります。不要なアプリやキャッシュを削除し、ストレージの空き容量を増やしてから、再度アップデートをお試しください。

1 リモコンの🏠ボタンを押します。

2 [アプリ] を選択し、アプリの一覧から [Epson Projector Update] を選択して起動します。



3 画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。

注意

ファームウェアの更新中は、本機を操作したり、本機の電源を切ったりしないでください。

▶▶ 関連項目

- 「Epson Projector Updateをインストールする」 [p.28](#)

本機のすべての設定を初期化することができます。



初期化を行うと、インストールされているアプリ、Googleアカウント情報、プロジェクターのメニュー設定内容などはすべて消去されます。消去したくない情報はメモしておくことをお勧めします。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3** ダッシュボードで  を選択します。
- 4** 以下の順序でメニューを選択します。
☛ [システム] > [デバイス情報] > [リセット] > [出荷時設定にリセット]
- 5** 画面の指示に従って、初期化を開始します。

▶ 関連項目

- 「システムメニュー」 [p.62](#)

メニューの設定

プロジェクターメニューの機能と設定について説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニューを操作する」 [p.56](#)
- 「チャンネルと入力メニュー」 [p.57](#)
- 「プロジェクターメニュー」 [p.58](#)
- 「ディスプレイと音メニュー」 [p.59](#)
- 「その他のメニュー」 [p.62](#)

投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

- 1** リモコンのボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 2** ダッシュボードでを選択します。
- 3** 上下ボタンを押して、メニュー項目を選択します。
- 4** 設定を変更するには、【決定】ボタンを押します。
- 5** 上下左右ボタンを押して、設定項目を選択します。
- 6** 上下左右ボタンを押して、設定を変更します。
- 7** メニューの設定が終わったら、ボタンを押します。
- 8** ボタンを押してメニューを終了します。

[チャンネルと入力] メニューでは、お使いのオーディオ機器、映像機器に関する設定ができます。

▶▶ 関連項目

- 「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 p.51

設定	選択肢	説明
入力	入力の切り替え	[ホーム] と [HDMI] 端子の映像を切り替えます。
	HDMI1 HDMI2 HDMI3	[この入力を表示]：入力ソースの一覧に [HDMI1] / [HDMI2] / [HDMI3] を表示するかどうかを設定します。 [PINのロック]：この設定を有効にすると、入力ソースを [HDMI] に切り替えるときに、プロジェクターのHDMI端子に接続されている機器のPINコードが必要になります。 [名前の編集]：本機のHDMI端子に接続したオーディオ機器名、映像機器名として表示したい名称を選択します。 [信号なしのスタンバイタイムアウト]：[HDMI] の入力信号がないときに、本機がスタンバイ状態になるまでの時間を設定します。 [HDMI EDIDバージョン]：EDIDのバージョンを表示します。
	グローバルなCECコントロール	[オン] に設定すると、本機のリモコンから接続機器を操作できます。
	接続されたデバイスをテレビでOFFにすることを許可	[オン] に設定すると、本機の電源オフに連動して、接続機器の電源をオフにします。
	接続されたデバイスでテレビをONにすることを許可する	[オン] に設定すると、接続機器の電源を入れたときや、接続機器で再生を開始したときに、本機の電源をオンにします。

[プロジェクター] メニューでは、映像の表示に関する設定ができます。

- 「液晶パネルの色ずれを補正する（液晶アライメント）」 [p.72](#)

設定	選択肢	説明
台形補正	—	画面の指示に従って、映像のゆがみを補正します。 Epson Setting Assistを使って補正するか、リモコンを使って補正するかを選択できます。
ズーム&シフト	—	映像のサイズと位置を調整します。
詳細設定	スマートアイプロテクション	[オン] に設定すると [スマートアイプロテクション] を有効にします。 投写エリア周辺に障害物を検知すると、自動的に光源の明るさを落として、まぶしさを低減します。
	設置モード	映像が正しい方向で投写されるように、スクリーンに対する本機の設置方法を選択します。
	インジケータ表示	[オフ] に設定すると、異常時や警告時以外は本機のインジケータを消灯します。
	高地モード	[オン] に設定すると、標高約1,500m以上の場所で本機を使えるように動作を制御します。
	液晶アライメント	液晶パネルの画素の色ずれを補正します。
Bluetoothスピーカーモード	—	[Bluetoothスピーカーモード] に切り替えます。

▶ 関連項目

- 「映像のゆがみを補正する」 [p.34](#)
- 「映像のサイズと位置を調整する」 [p.38](#)
- 「プロジェクターをBluetooth®スピーカーとして使用する」 [p.48](#)

[ディスプレイと音] メニューでは、投写映像の画質と音質を調整できます。

設定	選択肢	説明
ディスプレイ	画像モード	一覧からお好みのカラーモードを選択します。
	レーザーライト出力	光源の明るさを設定します。 使用する環境の温度が高いなどの理由で光源の明るさが低下している場合は、明るさを調整することはできません。
	明るさ	映像の明るさを調整します。
	コントラスト	映像のコントラストを調整します。
	彩度	映像の鮮やかさを調整します。
	色合い	映像の色合いを調整します。
	シャープネス	映像のシャープ感を調整します。
	詳細設定	詳細は下表をご覧ください。
	デフォルトに戻す	[ディスプレイ] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。
画面	アスペクトモードの種類を参照	映像のアスペクト比（縦横比）を設定します。（入力ソースがHDMIのときのみ設定できます。）
音	サウンドモード	再生するコンテンツの内容に適したサウンドモードを選択します。
	デフォルトに戻す	[音] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。
オーディオ出力	デジタル出力	外部のオーディオ機器に音声を出力するときの出力形式を選択します。

設定	選択肢	説明
	デジタル出力の遅延	映像と音声のずれを補正します。音声が早いときは、値を高くします。
	オーディオ出力デバイス	Optical Out端子に接続されたオーディオ機器からのみ音声を出力するときには [SPDIF] を選択します。本機のスピーカーからは音声は出力されません。
カラオケ	カラオケモード	[カラオケモード] を [オン] にすると、マイクから入力した音声と、コンテンツの音声を同時に本機のスピーカーから出力できます。 [カラオケモード] を使用するときには、オプションのマイク（ELPKM01）をお使いください。（ELPKM01は一部の国と地域でのみお買い求めいただけます。） [カラオケモード] は以下のいずれかのときに使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 入力ソースがHDMIのとき • YouTubeアプリを使用しているとき 以下のときは [カラオケモード] を使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> • 外部スピーカーに接続しているとき（Bluetooth接続、ケーブル接続ともに不可） • ヘッドフォンを接続しているとき
	ボーカルの音量	コンテンツ内の人の声の音量を抑えます。
	USBマイクの音量	USBで接続されたマイクの音量を調整します。

設定	選択肢	説明
	USBマイクのサウンド効果	USBで接続されたマイクの音響効果を選択します。

詳細設定

設定	説明
画像OFF	投写中の映像を停止します。
色温度	選択したカラーモードに応じて色温度を設定します。
DNR	映像のざらつきを抑えます。
MPEG NR	MPEG形式の映像のざらつきを抑えます。
映像優先設定	映像を投写するときに、明るさと色合いのどちらを優先するかを切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [きれい]：色合いを優先します。 ・ [明るい]：明るさを優先します。
ダイナミックコントラスト	映像の明るさに合わせて投写時の光量を調整します。
シーン適応ガンマ	シーンに応じて階調表現を最適化し、メリハリのある映像にします。値が大きいほど、明暗差がより強調されます。
ローカルコントラストの制御	投写映像のコントラストを強調します。
ダイナミックカラーブラスター	シーンに応じて彩度を自動で調整し、投写映像を鮮やかにします。
肌の色調整	映像の肌の色のトーンを明るくします。
ガンマ	映像の発色を調整します。

設定	説明
ゲームモード	ゲームなどの動きの速い投写映像に対して、応答速度を向上させる処理をします。以下の場合にのみ表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ALLM] が [オフ] のとき ・ [フレーム補間] が [オフ] のとき
ALLM	投写コンテンツに応じて応答速度を自動で調整します。
PCモード	映像信号の色情報を保持したまま投写するには、[オン]を選択してください。入力ソースが[HDMI]のときのみ設定できます。
フレーム補間	映像の動きの滑らかさを調整します。以下の場合にのみ表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ゲームモード] が [オフ] のとき ・ [PCモード] が [オフ] のとき
AISR	AI技術による画像解析を活用して、映像のシャープ感を強調します。
バンディングリダクション	映像のバンディングノイズを軽減します。
ブルーライト低減	投写映像のブルーライトを低減します。
カラーチューナー	[カラーチューナー] を有効にするには、[有効にする] を [オン] に設定してください。 [色調]、[彩度]、[明るさ] の各設定で、R (赤)、G (緑)、B (青)、C (シアン)、M (マゼンタ)、Y (黄)、および [肌のトーン] を個別に調整します。 オフセット、ゲインをR (赤)、G (緑)、B (青) の成分ごとに調整します。

設定	説明
AIPQ	プロジェクターチップ内の画像データベースに基づき、シーンごとに映像を分析して、適切な画質補正を行います。
HDMI RGBレンジ	HDMI端子に接続された機器の設定に合わせて、本機のビデオレベルを設定します。

▶▶ 関連項目

- 「映像を最適化する (カラーモード)」 [p.41](#)
- 「映像を最適化する (詳細設定)」 [p.42](#)
- 「光源の明るさを設定する」 [p.44](#)
- 「映像のアスペクト比を設定する」 [p.40](#)
- 「サウンドモードを切り替える」 [p.46](#)

その他のメニューでは、本機に関するさまざまな設定ができます。

▶ 関連項目

- 「ネットワークとインターネットメニュー」 [p.62](#)
- 「アカウントとプロフィールメニュー」 [p.62](#)
- 「プライバシーメニュー」 [p.62](#)
- 「アプリメニュー」 [p.62](#)
- 「システムメニュー」 [p.62](#)
- 「ユーザー補助メニュー」 [p.63](#)
- 「リモコンとアクセサリメニュー」 [p.63](#)
- 「ヘルプとフィードバックメニュー」 [p.63](#)

ネットワークとインターネットメニュー

[ネットワークとインターネット] メニューでは、ネットワーク情報の表示、ネットワーク経由で本機を使うための設定ができます。

アカウントとプロフィールメニュー

[アカウントとプロフィール] メニューでは、プロジェクターにログインするための、Googleアカウントの追加や設定ができます。

プライバシーメニュー

[プライバシー] メニューでは、プライバシーとセキュリティに関する設定ができます。

アプリメニュー

[アプリ] メニューには、最近使用したアプリや、プロジェクターにインストールされたすべてのアプリが表示されます。

システムメニュー

[システム] メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。

設定	説明
背景モードのスクリーンセーバー	スクリーンセーバーの設定をします。
電源と節電設定	電源と省エネに関する設定をします。
デバイス情報	本機の状態を表示します。 このメニューから、本機を初期化できます。
日付と時刻	本機の日付と時刻を設定します。
言語	メニュー、メッセージに表示する言語を選択します。
キーボード	本機のメニューで使用する仮想キーボードの設定をします。
ストレージ	内部ストレージの使用状況を表示したり、キャッシュをクリアしたりできます。
キャスト	キャスト機能をオン/オフします。
システム音	システム音をオン/オフします。
再起動	本機を再起動します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターを初期化する」 [p.54](#)

ユーザー補助メニュー

[ユーザー補助] メニューでは、字幕やテキスト読み上げなど、アクセシビリティに関する設定ができます。

リモコンとアクセサリメニュー

[リモコンとアクセサリ] メニューでは、リモコンのペアリングや、Bluetooth機器の接続設定ができます。

ヘルプとフィードバックメニュー

[ヘルプとフィードバック] メニューには、プロジェクターのヘルプページへのリンクが含まれており、製品に関するご意見やご感想を送信できます。

プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス方法について説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターのメンテナンス」 [p.65](#)
- 「投写窓を清掃する」 [p.66](#)
- 「モーションセンサーを清掃する」 [p.67](#)
- 「本機を清掃する」 [p.68](#)
- 「エアフィルターと吸気口をメンテナンスする」 [p.69](#)
- 「液晶パネルの色ずれを補正する（液晶アライメント）」 [p.72](#)

プロジェクターの投写窓、モーションセンサーは定期的に掃除する必要があります。また、エアフィルターや吸排気口も掃除して、本機内部の温度が上昇しないようにしてください。

お客様による交換が必要な部品は、エアフィルターとリモコンの電池のみです。他の部品を交換する必要があるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

警告

掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。また、取扱説明書で指示している場合を除き、本機のケースを開けないでください。内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。

プロジェクターの投写窓は定期的に掃除し、表面に付着したホコリや汚れに気付いたときにも掃除してください。

- 投写窓のホコリや汚れは、清潔で乾いた市販のメガネ拭きなどで軽く拭き取ってください。
- ホコリやゴミが多いときは、ブロアーで取り除いてから投写窓を拭いてください。

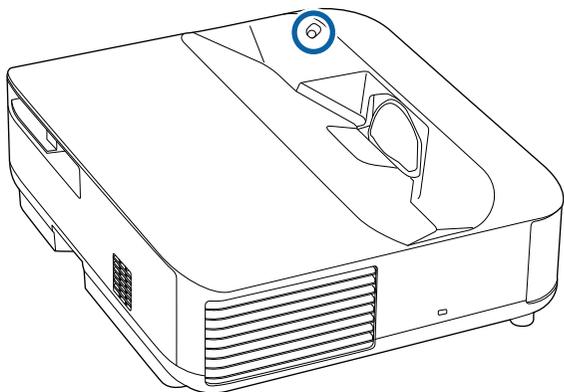
警告

- 投写窓の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。
- レンズに付着したゴミ・ホコリの除去にエアダスターなどの可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

- 光源消灯後すぐに投写窓を拭かないでください。投写窓の破損の原因となります。
- 投写窓の表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

投写窓付近の障害物を取り除くようメッセージが表示される時は、モーションセンサーを掃除してください。定期的に掃除することをお勧めします。センサーのホコリや汚れは、市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。



⚠ 警告

モーションセンサーに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

センサーは傷つきやすいので、たいものでこすったり、たいたりしないでください。センサーの表面に傷がつくと、誤作動の原因となります。

本機の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。

- 本機のコリや汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。本機に液体を直接スプレーしないでください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。本機のケースが変質、変色することがあります。また、エアダスターも使用しないでください。

エアフィルターは定期的にメンテナンスしてください。プロジェクターの内部温度が高くなっていることを示すメッセージが表示されたら、エアフィルターを掃除してください。一年に一度は掃除することをお勧めします。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除してください。(大気中に含まれる粒子物質が0.04~0.2mg/m³の環境下での使用を想定しています。)

注意

定期的にメンテナンスをしないと、プロジェクターの内部温度が高くなったときにメッセージが表示されます。内部の温度が上昇すると、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。

▶ 関連項目

- 「エアフィルターを清掃する」 [p.69](#)
- 「エアフィルターを交換する」 [p.70](#)
- 「吸気口を清掃する」 [p.71](#)

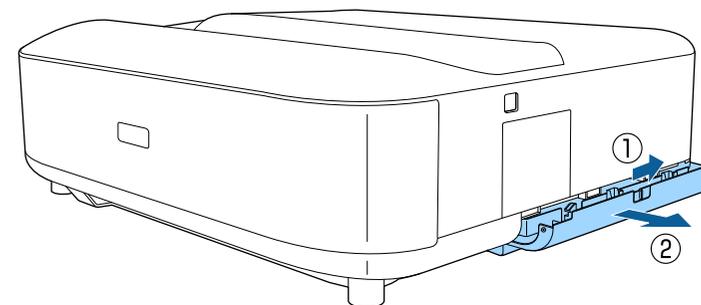
エアフィルターを清掃する

以下の場合には、エアフィルターを清掃してください。

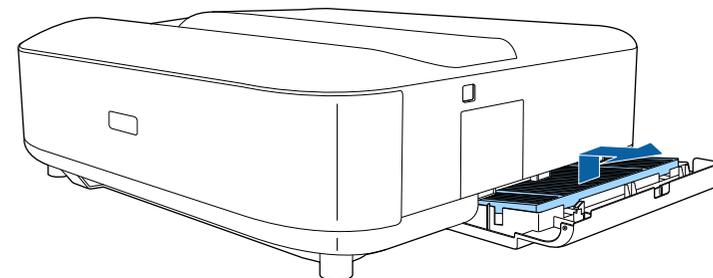
- エアフィルターや吸気口が汚れたとき

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

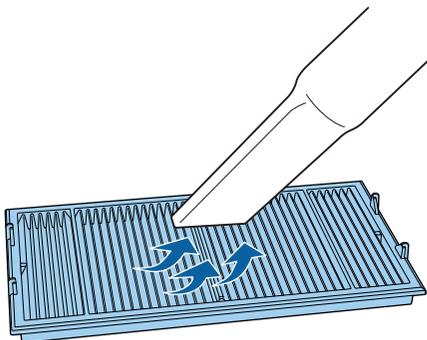
2 エアフィルターカバー操作つまみを横に動かして、エアフィルターカバーを開けます。



3 エアフィルターカバーからエアフィルターを抜き出します。



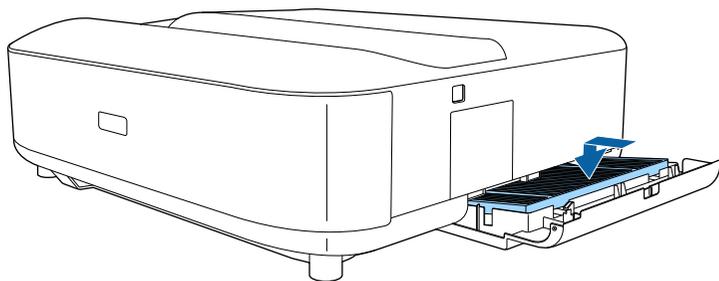
- 4** 掃除機でエアフィルターに残ったホコリを表側（ツメのある面）から吸い取ります。



注意

- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。
- エアダスターは使用しないでください。可燃性の物質が残留したり、精密部分にホコリが入り込むおそれがあります。

- 5** エアフィルターのツメ（4箇所）を下にしてセットします。



注意

ツメを上に向けてセットした状態で無理にカバーを閉めないでください。本機の故障の原因となります。

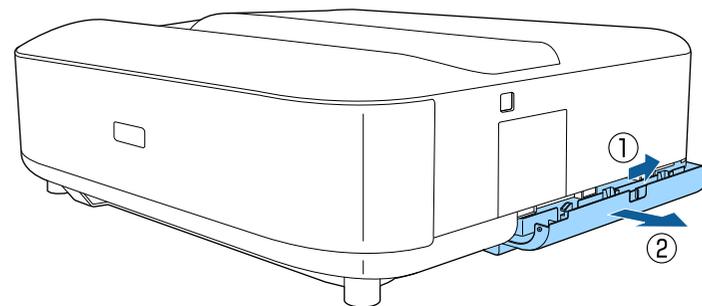
- 6** カチッと音がするまでエアフィルターカバーを閉めます。

エアフィルターを交換する

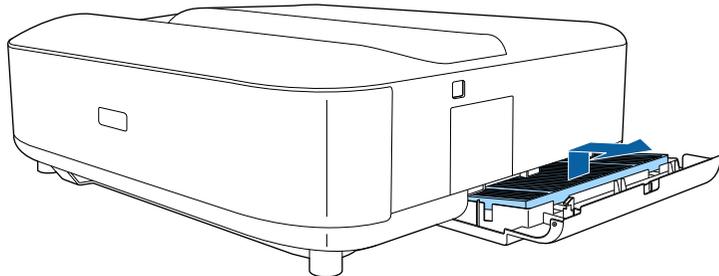
以下の場合、エアフィルターを交換してください。

- エアフィルターが破損している

- 1** 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。
- 2** エアフィルターカバー操作つまみを横に動かして、エアフィルターカバーを開けます。



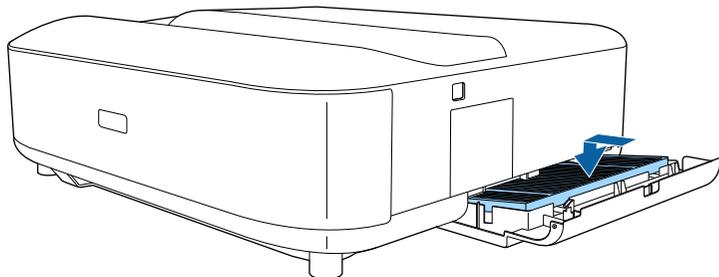
- 3** エアフィルターを取り外します。



使用済みのエアフィルターは、国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

- フィルターの枠：ポリプロピレン
- フィルター：ポリプロピレン、PET

- 4** 新しいエアフィルターを、ツメ（4箇所）を下にしてセットします。



注意

ツメを上に向けてセットした状態で無理にカバーを閉めないでください。本機の故障の原因となります。

- 5** カチッと音がするまでエアフィルターカバーを閉めます。

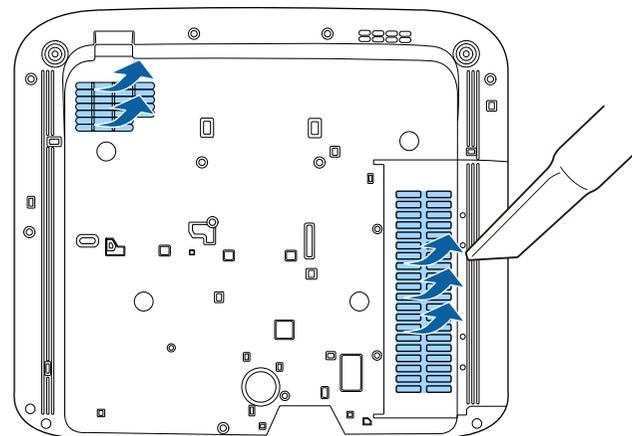
▶ 関連項目

- 「消耗品」 p.89

吸気口を清掃する

換気が妨げられて本機の内部温度が上昇しないように、本機の吸気口は定期的に掃除してください。また、吸気口の表面に付着したホコリに気付いたときにも掃除してください。

- 1** 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。
- 2** 底面を上にしてします。
- 3** 掃除機、またはブラシで丁寧にホコリを取ります。



液晶アライメント機能を使って、液晶パネルの画素の色ずれ（赤・青）を補正します。水平・垂直方向に0.125画素ずつ、それぞれ±3画素の範囲内で調整できます。



- 調整できる色は赤と青です。緑は基準色パネルのため、調整できません。
- 液晶アライメントでの調整後は、映像が劣化することがあります。
- 画面からはみ出した画素分の映像は表示されません。

1 リモコンの  ボタンを押して、[プロジェクター] メニューを表示します。

2 以下の順序でメニューを選択します。

☞ [詳細設定] > [液晶アライメント]



3 [液晶アライメント] を選択して、[オン] に設定します。

4 [調整色] を選択して、以下のいずれかを選択します。

- [R]：赤を調整します。
- [B]：青を調整します。

5 [パターン色] を選択して、調整時に表示するグリッドの色を選択します。[調整色] の設定によって選択できる色は異なります。

- [R/G/B]：グリッドは白で表示されます。
- [R/G]：グリッドは黄色で表示されます。[R/G] は [調整色] が [R] のときのみ表示されます。
- [G/B]：グリッドはシアンで表示されます。[G/B] は [調整色] が [B] のときのみ表示されます。

6 [次へ] を選択します。

7 [補正方式選択] 画面で、以下のいずれかを選択します。

- 液晶パネル全体の調整をするときは [全体調整] を選択して、手順8に進みます。
- より詳細な調整をするときは [4隅調整] を選択して、手順10に進みます。

8 上下左右ボタンを使って [調整色] で選択した色を調整し、【決定】ボタンを押します。



調整結果が画面全体のグリッドに反映されます。

9 次のいずれかを選択します。

- より詳細な調整をするときは [4隅を調整する] を選択します。
- 終了するときは [終了] を選択します。

- 10** 上下左右ボタンを使って、四角で表示されたコーナーの色を調整し、【決定】ボタンを押します。
- 11** 4隅の調整が終わったら【決定】ボタンを押します。
- 12** 次のいずれかを選択します。
 - さらに調整が必要なときは〔詳細調整〕を選択します。上下左右ボタンを使って、調整が必要な交点を選択し、【決定】ボタンを押します。調整を行い、もう一度【決定】ボタンを押します。同様の手順で他の交点を調整します。
 - 終了するときは〔終了〕を選択します。

困ったときに

想定されるトラブルと、その対処方法について説明します。

▶ 関連項目

- 「トラブルの対処方法」 [p.75](#)
- 「インジケータの見方」 [p.76](#)
- 「電源に関するトラブル」 [p.78](#)
- 「映像に関するトラブル」 [p.79](#)
- 「音声に関するトラブル」 [p.82](#)
- 「リモコン操作に関するトラブル」 [p.84](#)
- 「HDMI CECに関するトラブル」 [p.85](#)
- 「Wi-Fiネットワークに関するトラブル」 [p.86](#)
- 「コンテンツの視聴に関するトラブル」 [p.87](#)

プロジェクターが正しく動作しないときは、一度電源を切り、電源コードを差し直してから再度電源を入れます。

問題が解決しないときは、以下を確認します。

- インジケーターで本機の状態を確認する。
- 本書のトラブル一覧で対処方法を確認する。

問題が解決しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

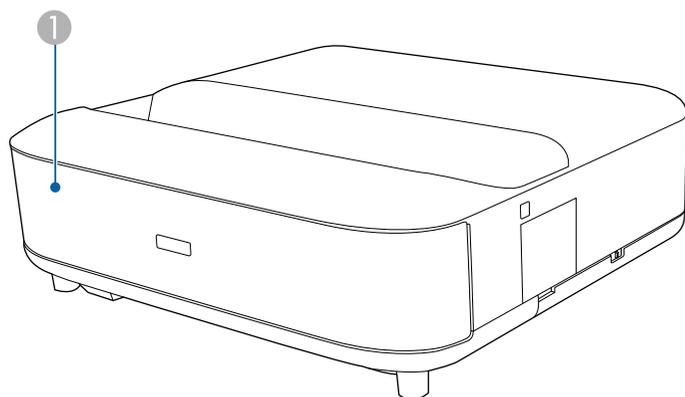


本機を修理に出された場合、初期化してお返すことがあります。各種オンラインサービスのアカウント情報を必ずお控えの上、修理をご依頼ください。

インジケータは、本機の状態をお知らせします。インジケータの色と状態を確認し、以下の表から対処方法を確認してください。



各インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。



① ステータスインジケータ

プロジェクターの状態

インジケータの状態/動作状態	問題と対処方法
白点灯 (投写中の状態) 本機は映像を投写できます。	—

インジケータの状態/動作状態	問題と対処方法
白点滅 (スタンバイモードに移行中、またはプロジェクターファームウェアを更新中) ファームウェアのアップデートが始まると、画面にメッセージが表示されます。	白点滅中は、リモコン操作ができないことがあります。
消灯 (スタンバイ状態)	電源ボタンを押すと、投写を開始します。
橙点灯 (警告状態) 警告の内容は、画面で確認できます。	<p>内部高温異常 (オーバーヒート) 状態です。自動的に消灯し、投写できなくなります。電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 高温にならない環境で使用するようにします。 エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 標高1,500 m以上の場所でお使いのときは、[高地モード] を [オン] にします。  [プロジェクター] > [詳細設定] > [高地モード] 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インジケータの状態/動作状態	問題と対処方法
	<p>モーションセンサー警告です。 警告音が鳴り、以下のメッセージが表示されます。 [安全のため映像を停止しています。] [レンズ付近から離れる、または障害物を取り除いてください。] 光源の明るさが落ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 投写窓付近に人がいないか確認します。投写窓から離れます。 • 投写窓付近に誰もいないときは、モーションセンサーを掃除します。 <p>レーザー警告です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。</p>
<p>橙点滅 (エラー状態) 本機の電源を入れることはできません。</p>	<p>内部異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。</p>

▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニュー」 [p.58](#)
- 「エアフィルターを清掃する」 [p.69](#)
- 「エアフィルターを交換する」 [p.70](#)
- 「吸気口を清掃する」 [p.71](#)

電源に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- 「電源が入らない」 [p.78](#)
- 「予期せず電源が切れる」 [p.78](#)

電源が入らない

電源ボタンを押しても本機の電源が入らないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 電源コードが本機とコンセントに確実に接続されていることを確認します。
- 2** リモコンの電池を確認します。
- 3** 電源コードが故障している可能性があります。電源コードを抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.30](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.24](#)

予期せず電源が切れる

本機の光源が予期せず消えるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [電源と節電設定] メニューの [シャットダウンタイマー] で設定した時間が経過したため、本機の電源がオフになっている可能性があります。プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押して、電源を入れます。

☛ [システム] > [電源と節電設定] > [シャットダウンタイマー]

- 2** 入力ソースをHDMIに切り替えた後、[信号なしのスタンバイタイムアウト] で指定された時間内に入力信号がないときは、本機は自動的にスタンバイモードになります。電源ボタンを押して、スタンバイモードから復帰します。

☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [HDMI 1] / [HDMI 2] / [HDMI 3] > [信号なしのスタンバイタイムアウト]

- 3** ステータスインジケータが橙色に点灯しているときは、本機の内部高温異常（オーバーヒート）で電源がオフになっています。



プロジェクターの設定によって、スタンバイ状態でもファンが回転することがあります。また、スタンバイ状態から電源をオンにしたときに、ファンが大きな音を立てて回転することがありますが、異常ではありません。

- 4** 投写窓付近に障害物がないか確認します。障害物があるときは取り除きます。

▶ 関連項目

- 「チャンネルと入力メニュー」 [p.57](#)
- 「システムメニュー」 [p.62](#)

投写映像に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- 「映像が表示されない」 [p.79](#)
- 「映像がゆがむ」 [p.80](#)
- 「映像がぼやける」 [p.80](#)
- 「映像の一部が表示されない」 [p.80](#)
- 「映像にノイズが入る、乱れる」 [p.81](#)
- 「映像の明るさや色合いが違う」 [p.81](#)

映像が表示されない

映像が表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

1 本機の状態を確認します。

- インジケーターの色と状態を確認します。
- スタンバイ状態から復帰するには、本機の電源ボタンを押します。
- 入力ソースをHDMIに切り替えた後、[信号なしのスタンバイタイムアウト]で指定された時間内に入力信号がないときは、本機は自動的にスタンバイモードになります。電源ボタンを押して、スタンバイモードから復帰します。
 - ☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [HDMI 1] / [HDMI 2] / [HDMI 3] > [信号なしのスタンバイタイムアウト]

2 ケーブルの接続を確認します。

- 必要なケーブルがすべて接続されていること、本機の電源が入っていることを確認します。
- 本機とビデオ機器を直接接続してください。
- HDMIケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。

HDMIケーブルの長さは5m以下のものを推奨します。5メートルを超えるHDMIケーブルを使用すると、信号が劣化し、映像や音声不安定になるおそれがあります。

- 4K 60Hz 4:4:4などの18 Gbps伝送帯域の信号を投写するときは、プレミアムハイスピードのHDMIケーブルをお使いください。

3 ビデオ機器の状態を確認します。

- ビデオ機器の電源が入っていることを確認し、再生ボタンを押してコンテンツを再生してみます。
- 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ノートパソコンから投写するときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。

4 次の点を確認します。

- オンラインコンテンツを視聴する際は、インターネットへの接続が必要です。Wi-Fiサービスを利用できるか確認してください。
- 本機、および接続されたビデオ機器の電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
- ビデオ機器のCEC電源連動機能を有効にして、電源を入れ直します。
- コンピューターのディスプレイ解像度が本機の対応解像度、周波数と合っているか確認します。必要に応じて、コンピューターのディスプレイ解像度を変更します。(詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。)
- 本機のすべての設定を初期化します。

▶ 関連項目

- 「チャンネルと入力メニュー」 [p.57](#)

映像がゆがむ

投写画面がゆがむときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。
- 2 [台形補正] メニューで映像のゆがみを補正します。
☛ [プロジェクター] > [台形補正]

▶▶ 関連項目

- 「映像のゆがみを補正する」 p.34

映像がぼやける

投写映像がぼやけるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 フォーカスレバーで映像のピントを合わせます。
- 2 投写距離の推奨範囲内に設置します。
- 3 本機の投写窓を掃除します。



寒い場所から暖かい場所に持ち込んだときは、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間ぐらい前に本機を設置するようにします。

- 4 [ディスプレイと音] メニューで [シャープネス] を調整して、投写映像の画質を上げます。
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [シャープネス]

- 5 コンピューターから映像を投写しているときは、解像度を下げるか、本機の解像度に合わせて解像度を変更します。

▶▶ 関連項目

- 「ピントを調整する」 p.33
- 「ディスプレイと音メニュー」 p.59
- 「投写窓を清掃する」 p.66

映像の一部が表示されない

映像が部分的にしか表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 [プロジェクター] メニューの [ズーム&シフト] で、映像の位置を調整します。
☛ [プロジェクター] > [ズーム&シフト]
- 2 [画面] メニューで、入力ソースに合わせて適切なアスペクト比を選択します。(入力ソースがHDMIのときのみ)
☛ [ディスプレイと音] > [画面]
- 3 コンピューターのディスプレイ設定でデュアルディスプレイが無効になっているか、本機の対応解像度に合った設定がされているか確認します。(詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。)

▶▶ 関連項目

- 「映像のサイズと位置を調整する」 p.38
- 「映像のアスペクト比を切り替える」 p.40

映像にノイズが入る、乱れる

投写映像に電子的な干渉（ノイズ）や妨害が入るときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 本機とビデオ機器を接続しているケーブルの状態を確認します。ケーブルが以下の状態であることを確認してください。
 - 干渉を受けないように、電源コードから離れている
 - ケーブルの両端が確実に接続されている
 - 延長ケーブルを使用していない
- 2** メニューの [DNR] を調整します。
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [詳細設定] > [DNR]
- 3** 映像のゆがみを補正したときは、[ディスプレイと音] メニューで [シャープネス] を低い値に設定して、投写映像の画質を向上させます。
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [シャープネス]
- 4** 延長ケーブルを使用して電源に接続しているときは、延長ケーブルを使わずに投写して、映像にノイズが入らないか確認します。
- 5** コンピューターのディスプレイ解像度やリフレッシュレートが本機の対応解像度、リフレッシュレートと合っているか確認します。
- 6** eARC/ARC非対応のAVアンプをHDMI端子に接続すると、映像が乱れることがあります。

▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音 メニュー」 p.59

映像の明るさや色合いが違う

投写映像が暗すぎるとき、明るすぎるとき、また色合いが正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [画像モード] メニューのカラーモードで、映像と投写環境に合うカラーモードを選択します。
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [画像モード]
- 2** お使いのビデオ機器の設定を確認します。
- 3** [ディスプレイ] メニューで色に関する設定を調整します。
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ]
- 4** [ディスプレイと音] メニューで [HDMI RGBレンジ] を設定します。(HDMIソースのみ)
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [詳細設定] > [HDMI RGBレンジ]
- 5** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。ケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。
- 6** 投写距離の推奨範囲内に設置します。

▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音 メニュー」 p.59

音声に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- 「音が出ない、小さすぎるなどのトラブル」 [p.82](#)
- 「Bluetoothスピーカーモードでのトラブル」 [p.82](#)

音が出ない、小さすぎるなどのトラブル

音が出ない、小さすぎるなどの問題があるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** リモコンの  上下ボタンを押して音量を調整します。
- 2** 本機とビデオ機器のケーブルが正しく接続されているか確認します。
- 3** ビデオ機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。
- 4** 本機のスピーカーから音声を出力するときは、[グローバルなCECコントロール] が [オフ] に設定されていることを確認します。
☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]
- 5** HDMIケーブルで、HDMI eARC/ARC対応のオーディオ機器に接続して音声を出力するときは、以下の設定を確認します。
 - ARC接続しているときは、メニューで [グローバルなCECコントロール] を [オン] に設定します。
☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]

- お使いのHDMIケーブルが、HDMI eARC/ARCに対応しているか確認します。



- HDMI eARC/ARC非対応のオーディオ機器に音声を出力するときは、メニューで [グローバルなCECコントロール] を [オフ] に設定します。
☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]
- eARC/ARCの対応音声形式について詳しくは、『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

- 6** HDMI eARC/ARC対応のオーディオ機器に正しく音声が出力されないときは、[デジタル出力] の設定を [自動] から [PCM] に変えてみてください。
☛ [ディスプレイと音] > [オーディオ出力] > [デジタル出力]
- 7** 本機のOptical Out端子に接続されたオーディオ機器からのみ音声を出力し、本機のスピーカーからは音声を出力しないときは、[オーディオ出力デバイス] を [SPDIF] に設定します。
☛ [ディスプレイと音] > [オーディオ出力] > [オーディオ出力デバイス]

▶ 関連項目

- 「チャンネルと入力メニュー」 [p.57](#)
- 「ディスプレイと音メニュー」 [p.59](#)

Bluetoothスピーカーモードでのトラブル

Bluetoothオーディオ機器を本機に接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

1 [プロジェクター] メニューで [Bluetoothスピーカーモード] を選択して、リモコンの【決定】ボタンを押します。

2 Bluetooth機器に表示される接続可能機器の一覧から、プロジェクター一名（本機）を選択します。



[デバイス名] メニューでプロジェクターの名前を確認、変更できます。

☛ [システム] > [デバイス情報] > [デバイス名]

3 Bluetooth機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。

4 他のBluetooth機器が接続されていないことを確認します。
複数のBluetooth機器を同時に接続することはできません。

5 Bluetooth機器が本機のBluetooth仕様に適合しているか確認します。

6 次の点を確認します。

- Bluetoothオーディオ機器と本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- Bluetoothオーディオ機器が離れすぎているか確認します。
- 電子レンジ、2.4GHz帯の周波数を使用するコードレス電話や無線機器などの近くで本機を使用しないでください。電波干渉が発生することがあります。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターをBluetooth®スピーカーとして使用する」 [p.48](#)
- 「Bluetooth仕様」 [p.93](#)

本機がリモコン操作に反応しない、または反応が遅いときは、次の対処方法を確認してください。



リモコンを紛失した場合は、新たにリモコンをお買い求めいただけます。お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

- 1** リモコンの電池が正しくセットされていること、電池が切れていないことを確認します。必要に応じて、電池を交換します。
- 2** リモコンのボタンが押し込まれた状態になっていて、操作できない可能性があります。ボタンを元の状態に戻してください。
- 3** ペアリング画面が表示される場合は、リモコンの  ボタンと  ボタンを同時に約3秒間押して、再ペアリングしてください。



- ペアリングを行うときは、リモコンを本機から30 cm以内に近づけてください。
- ペアリングが始まると、リモコンのインジケータが点滅します。終了すると、インジケータは消灯します。
- 本機と複数のリモコンを同時にペアリングすることはできません。新しいリモコンをペアリングすると、既存のリモコンのペアリングは解除されます。意図したリモコンがペアリングされていることを確認してください。

- 4** [リモコンとアクセサリ] メニューでペアリング画面を表示して、再ペアリングしてください。
- 5** リモコン信号が届く距離、角度からリモコンを操作します。

- 6** 蛍光灯の強い光、直射日光、赤外線機器の信号が、本機のリモコン受光部に干渉することがあります。照明の明るさを落とす、または直射日光や赤外線干渉を避けられる場所に本機を移動してください。
- 7** リモコンが故障している可能性があります。お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 [p.24](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.24](#)

HDMI CECで接続機器を操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのケーブルがHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。
- 2** 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 3** [チャンネルと入力] メニューで [グローバルなCECコントロール] を [オン] にします。
☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]
- 4** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。
- 5** 接続機器の電源がスタンバイ状態になっているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 6** 新しく機器を接続したり、接続を変更した後に操作できないときは、接続機器のCEC機能を設定し直して、再起動します。

▶ 関連項目

- 「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 [p.51](#)
- 「チャンネルと入力メニュー」 [p.57](#)

Wi-Fiネットワークに接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのWi-Fiルーターやモデムが正しく動作していることを確認します。再起動すると問題が解決することがあります。
- 2** Wi-Fiルーターと本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- 3** [ネットワークとインターネット] メニューの [Wi-Fi] で、ネットワークの設定を確認できます。
- 4** 本機を初期化したときは、初期設定でネットワークを設定しなおす必要があります。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターを初期化する」 [p.54](#)

オンラインコンテンツの視聴に関するトラブルは、以下のサイトを参照してください。

<https://support.google.com/googletv/>

付録

お使いの製品の仕様や使用上の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- 「オプション・消耗品一覧」 [p.89](#)
- 「スクリーンサイズと投写距離」 [p.90](#)
- 「対応解像度」 [p.91](#)
- 「本機仕様」 [p.92](#)
- 「外形寸法図」 [p.94](#)
- 「安全規格対応シンボルマークと説明」 [p.95](#)
- 「レーザー製品を安全にお使いいただくために」 [p.97](#)
- 「用語解説」 [p.99](#)
- 「一般のご注意」 [p.100](#)

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。

これらのオプション品は2025年7月現在のものです。

予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

▶ 関連項目

- 「スクリーン」 [p.89](#)
- 「マイク」 [p.89](#)
- 「消耗品」 [p.89](#)

スクリーン

100型超短焦点スクリーン **ELPSC35**

壁などに取り付けるスクリーンです。(アスペクト比 16:9)

マイク

ワイヤレスカラオケマイク **ELPKM01**

本機でカラオケを楽しむときに使います。

消耗品

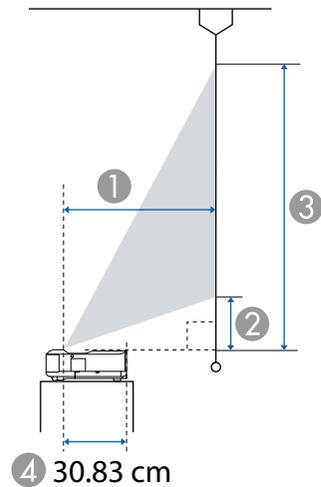
エアフィルター **ELPAF60**

使用済みエアフィルターと交換します。

▶ 関連項目

- 「エアフィルターを交換する」 [p.70](#)

この表に従って、スクリーンからプロジェクターまでの距離を、投写映像の大きさに応じて決めます。



- ① 投写距離 (cm)
- ② 本機からスクリーン下端までの長さ (cm)
- ③ 本機からスクリーン上端までの長さ (cm)
- ④ レンズ中心から本機の背面までの長さ (cm)

16:9スクリーンサイズ		①	②	③
60型	133 × 75	32.5	11.5	86.3
65型	144 × 81	35.6	13.0	94.0
70型	155 × 87	38.8	14.5	101.7
75型	166 × 93	42.0	16.0	109.4
80型	177 × 100	45.1	17.5	117.1
90型	199 × 112	51.4	20.5	132.5
100型	221 × 125	57.7	23.5	148.0

16:9スクリーンサイズ		①	②	③
120型	266 × 149	70.3	29.4	178.8

4:3スクリーンサイズ		①	②	③
50型	102 × 76	33.2	11.9	88.1
55型	112 × 84	37.1	13.7	97.5
60型	122 × 91	41.0	15.5	107.0
65型	132 × 99	44.8	17.4	116.4
70型	142 × 107	48.7	19.2	125.9
75型	152 × 114	52.5	21.0	135.3
80型	163 × 122	56.4	22.8	144.7
98型	199 × 149	70.3	29.4	178.7

16:10スクリーンサイズ		①	②	③
56型	121 × 75	32.8	11.7	87.1
60型	129 × 81	35.6	13.0	93.8
65型	140 × 88	39.0	14.6	102.1
70型	151 × 94	42.4	16.2	110.4
80型	172 × 108	49.2	19.4	127.1
90型	194 × 121	56.0	22.6	143.8
100型	215 × 135	62.8	25.9	160.5
111型	239 × 149	70.3	29.4	178.8

映像信号ごとのリフレッシュレートと解像度についての詳細は『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

商品名	EH-LS670B/EH-LS670W
外形サイズ	幅467×高さ133×奥行き400 mm (突起部を含まず)
液晶パネルサイズ	0.62型
表示方式	3LCD
有効画素数	Full HD (横1,920×縦1,080ドット) ×3
スクリーン解像度	4,147,200ピクセル*
フォーカス調整	手動
光源	レーザーダイオード
光源出力	最大76.5 W
波長	449 - 461 nm
レーザークラス(内部のレーザー光源)	クラス4
光源寿命**	約20,000時間
音声最大出力	20 W
スピーカー	2.1ch (スピーカー2個、ウーファー1個)
電源	100-240 V AC±10% 50/60Hz 2.8 - 1.3 A
消費電力 (100-120 Vエリア)	動作時 (明るさが100%のとき) : 265 W 動作時 (明るさが50%のとき) : 169 W
消費電力 (220-240 Vエリア)	動作時 (明るさが100%のとき) : 254 W 動作時 (明るさが50%のとき) : 162 W
待機時消費電力	通信オン : 2.0 W 通信オフ : 0.5 W
動作高度	標高 0~3,048 m

動作温度範囲	標高0~2,286 m : +5~+35°C (湿度20~80%、結露しないこと) 標高2,287~3,048 m : +5~+30°C (湿度20~80%、結露しないこと)
保存温度範囲	-10~+60°C (湿度10~90%、結露しないこと)
質量	約7.4kg

* ピクセルシフト技術により、4K相当の解像度を実現しています。

** 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。(大気中に含まれる粒子物質が0.04~0.2mg/m³の環境下での使用を想定しています。使用条件や使用環境によって目安時間は変動します。)

定格ラベルは本機の底面に貼り付けられています。

▶▶ 関連項目

- 「接続端子」 [p.92](#)
- 「Bluetooth仕様」 [p.93](#)

接続端子

Audio Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック (3極)
HDMI1端子	1系統	HDMI (Aタイプ)
HDMI2 (eARC/ARC)端子	1系統	HDMI (Aタイプ)
HDMI3端子	1系統	HDMI (Aタイプ)
USB-A端子	2系統	USBコネクタ (Aタイプ)
Service端子	1系統	USBコネクタ (Mini-B)
Optical Out端子	1系統	光デジタル音声コネクタ (S/PDIF)



USB-A端子はUSB2.0に対応しています。ただし、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。

Bluetooth仕様

バージョン	Bluetooth Ver. 5.2
出力	クラス2
通信可能距離	約10m
対応プロファイル	A2DP、AVRCP、HID
使用周波数	2.4 GHz帯 (2.402 - 2.480 GHz)
対応コーデック	SBC、AAC、aptX *

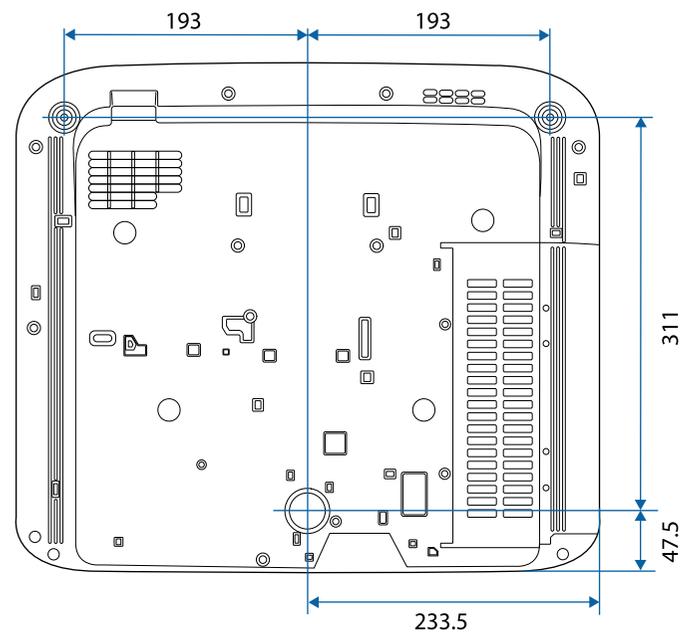
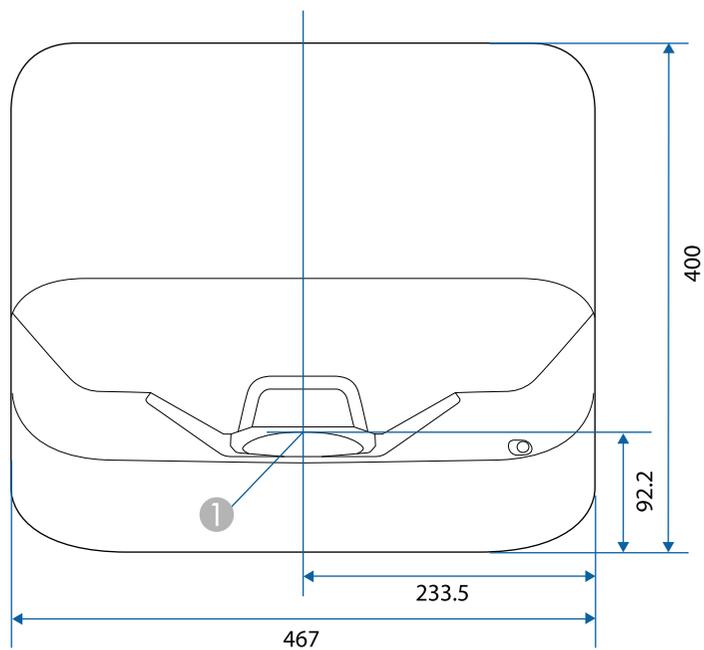
* aptXは、本機からBluetooth対応のスピーカーやヘッドホンに音声を出力するときのみ有効です。

警告

医療機器、自動ドアや火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しないでください。電磁妨害による誤動作や事故の原因となります。

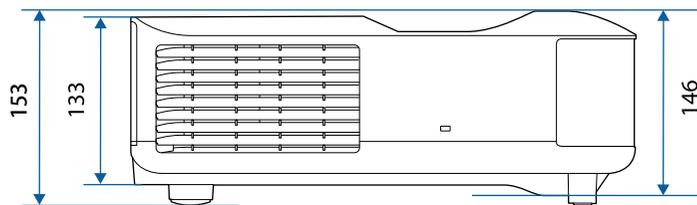


- 機器の規格や種類によっては接続できないことがあります。
- 通信可能距離内で接続しているときでも、電波状況によっては接続が切れることがあります。
- Bluetoothの通信方式は、無線LAN (IEEE802.11b/g) や電子レンジと同一の周波数帯 (2.4GHz) を使用しています。そのため、同時に使用すると電波干渉が発生し、映像や音声途切れたり接続できないことがあります。同時に使用したいときは、Bluetooth機器をこれらの機器の近くで使用しないでください。
- Bluetooth機能は、初めて本機の電源を入れたときから有効です。



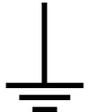
単位：mm

① 投写レンズの中心



製品上にシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
①		IEC60417 No. 5007	電源ON 電源への接続を示す。
②		IEC60417 No. 5008	電源OFF 電源からの切り離しを示す。
③		IEC60417 No. 5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
④		ISO7000 No. 0434B, IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
⑤		IEC60417 No. 5041	注意（高温） 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
⑥		IEC60417 No. 6042 ISO3864-B3.6	注意（感電危険） 感電（電撃）の危険性がある機器・装置であることを示す。
⑦		IEC60417 No. 5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
⑧		IEC60417 No. 5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
⑨		—	No. 8と同じ
⑩		IEC60417 No. 5001B	電池（一般） 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。
⑪		IEC60417 No. 5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内での向きを示す。
⑫		—	No. 11と同じ
⑬		IEC60417 No. 5019	保護接地 障害発生時の電撃（感電）保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⑭		IEC60417 No. 5017	アース No. 13の使用が明示的に要請されない場合の接地（アース）端子であることを示す。
⑮		IEC60417 No. 5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
16		IEC60417 No. 5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
17		IEC60417 No. 5172	クラスII機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラスII機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
18		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
19		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
20		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
21		—	プロジェクターの上に物を置いたはならないことを示す。
22		ISO3864 IEC60825-1	注意（レーザー放射） 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
23		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
24		IEC60417 No. 5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
25		ISO3864 IEC60417 No. 5057	注意（可動部品） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
26		IEC60417 No. 6056	注意（可動ファンのブレード） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
27		IEC60417 No. 6043	注意（鋭利な角） 保護規定上、鋭利な角には触れてはいけないことを指示する。
28		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止。
29		ISO7010 No. W027 ISO 3864	警告、光放射（UV、可視光、IRなど） 光放射の近くにいるときは、目や肌に負傷を与えないように注意してください。
30		IEC60417 No. 5109	居住区域使用禁止 居住区域での使用に適さない電気機器・装置であることを示す。

本機はJIS C 6802:2014、およびIEC60825-1に適合したクラス1レーザー製品です。

以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

警告

- 本機のケースを開けないでください。内部に高出力レーザー製品が組み込まれています。
- 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。

注意

本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。



本機的光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のような特性があります。

- 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は明るさ設定で変更できます。

▶ 関連項目

- 「レーザー警告ラベル」 p.97

レーザー警告ラベル

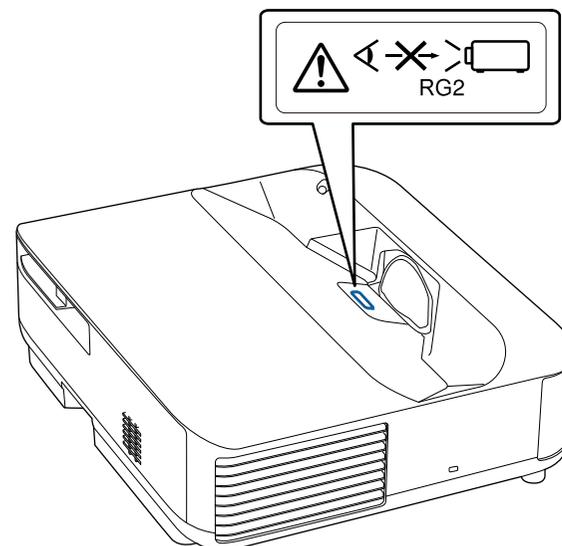
本機には以下のレーザー警告ラベルが貼られています。

内部



上面

投写中は、光源から放射される光をのぞかないでください。(RG2 IEC/EN 62471-5:2015に準拠)



警告

- 投写中は本機のレンズをのぞき込まないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様やペットの行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 小さなお子様には操作させないでください。操作する可能性がある場合は、必ず保護者が同伴してください。
- 投写中はレンズをのぞきこまないでください。また、ルーペや望遠鏡などの光学機器を用いてレンズをのぞかないでください。視覚障害の原因になることがあります。

本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横：縦の比率が16:9の、HDTVなどの画面をワイド画面といっています。 SDTVや、一般的なコンピューターのディスプレイのアスペクト比は4:3です。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がはっきり見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といっています。
4K	画面サイズの規格で、横3,840ドット×縦2,160ドットのことを呼びます。
Full HD	画面サイズの規格で、横1,920ドット×縦1,080ドットのことを呼びます。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略です。 DVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。 本機のHDMI端子はHDCPに対応しているため、HDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。 ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDMI™	High Definition Multimedia Interfaceの略で、デジタル家電やコンピューター向けの規格です。HD映像とマルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送できます。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送できます。デジタル信号の暗号化機能もあります。

HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> 垂直解像度720p、1080i以上（pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査） 画面のアスペクト比は16:9
ペアリング	Bluetooth機器で接続するとき、相互に通信できるよう、あらかじめ機器を登録することです。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。 そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。 その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ（Hz）で表します。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。

本機をお使いの際の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- 「使用限定について」 [p.100](#)
- 「本機を日本国外へ持ち出す場合の注意」 [p.100](#)
- 「瞬低（瞬時電圧低下）基準について」 [p.100](#)
- 「JIS C 61000-3-2適合品」 [p.100](#)
- 「商標について」 [p.100](#)
- 「ご注意」 [p.101](#)
- 「著作権について」 [p.101](#)

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

- 日本国内向けの本製品を海外で利用した場合は、保証の対象外となります。国内で販売する本製品は、日本国内使用を意図した安全規格基準のみ対応しているため、日本国以外でのご使用は違法となる場合があります。また、国や地域によっては電波使用制限があるため、ネットワーク機能を海外で使った場合、罰せられることがあります。

- 電源コードは日本国内向けの電源仕様に基づき同梱されています。本機を日本国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低（瞬時電圧低下）基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

商標について

Mac、OS X、macOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Google TVは、本デバイスのソフトウェア機能の名称であり、Google LLCの商標です。Google、YouTube、Google CastはGoogle LLCの商標です。

ドルビーラボラトリーズの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Audio及びダブルD記号はDolby Laboratories Licensing Corporationの登録商標です。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。 

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Wi-Fi®はWi-Fi Alliance®の商標です。

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、セイコーエプソン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商品名は、それぞれの所有者に帰属します。

Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者（「お問い合わせ先」参照）以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

著作権について

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© 2025 Seiko Epson Corporation

2025.12 414641503JA